

平成30年度

入学者選抜に関する要項

岐阜大学

- * 教育学部
- * 地域科学部
- * 医学部
- * 工学部
- * 応用生物科学部

平成29年7月

目 次

Ⅰ	アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	1
Ⅱ	募集人員	4
Ⅲ	出願資格	6
Ⅳ	岐阜大学入学資格審査	7
Ⅴ	障害等のある者の出願にあたっての事前相談	9
Ⅵ	入学者選抜方法等	11
	1. 一般入試の入学者選抜方法等	11
	2. 特別入試の入学者選抜方法等	13
	3. 一般入試の実施教科・科目及び配点等	14
	4. 大学入試センター試験の受験を要する教科等	25
	(1) 一般入試	25
	ア 前期日程	25
	イ 後期日程	27
	(2) 推薦入学Ⅱ特別入試	29
	5. 一般入試の実技検査・小論文・面接	33
	6. 特別入試の入試方法等	35
	(1) 推薦入学特別入試	35
	(2) 社会人特別入試	44
	(3) 帰国生特別入試	46
	(4) 私費外国人留学生特別入試	47
Ⅶ	学生募集要項・大学（学部）案内の請求方法等	49

「入試過去問題活用宣言」への参加について

本学は、「入試過去問題活用宣言」に参加しており、アドミッション・ポリシーを実現するため必要と認める範囲で「宣言参加大学」の入試過去問題あるいは類似問題を使用して出題することがあります。ただし、必ず使用するとは限りません。

詳細は、「<http://www.nyushikakomon.jp>」にて公表しています。不明な点等がありましたら、本学入試課へお問い合わせください。

I アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

◎ 岐阜大学

岐阜大学は、自然豊かな1つのキャンパスで、幅広い分野において「学び、究め、貢献する」人材を育てます。大学での学修に必要な基礎知識と技能を備えており、次のような人の入学を期待しています。

1. 知的な好奇心にあふれ、自ら進んで学ぼうとする人
2. さまざまな見方や論理的な考え方ができる人
3. 相手の意見を聴き、自分の考えを伝えることができる人
4. 積極的に課題を探索しようとする人
5. これからの地域や国際社会で活躍したい人

◎ 教育学部

<基本理念>

岐阜大学教育学部は、岐阜県を中心として活躍する、優れた専門的知見と指導能力をもつ教員、ならびに社会の多様な学習要求に応える教育専門職及び教育関係者の養成を目的とする学部です。本学部は、教育を通じて、平和で豊かな世界の実現に貢献する人材を育成します。

<求める学生像>

[知識・技能]

大学での学修に必要な教科・科目の基礎知識、実技系においてはその基礎的实践能力を有する人

[思考力・判断力]

知識・技能を批判的に継承しつつ、多様かつ創造的な思考・判断ができる人

[表現力]

子どもや保護者をはじめ社会の様々な人の声に耳を傾け、自分の考えを適切に表現できる能力をもつ人

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

大学ならびに教育実践の場における様々な学修を通じて、自ら進んで他者と協働し、教職に対するよりよい理解を得ようとする人

[その他の教育学部が求める要素]

- ・豊かな人間性の上に、教育に対する情熱と責任感を有する人
- ・岐阜県を中心とした教育現場で活躍できる人

学力の3要素等		知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	その他の教育学部が求める要素
選抜方法ごとの見る力	前期日程	センター試験	◎	○		
		個別学力試験	○	◎	○	
		実技検査（音・美・体）	◎		◎	
		面接（美術のみ）	◎	○	◎	◎
	後期日程	センター試験	◎	○		
		個別学力試験（音・体を除く）	○	◎	○	
		実技検査（音・体）	◎		◎	
	推薦II	センター試験	◎	○		
		推薦書	○	○	○	○
		志望理由書				
面接		◎	○	◎	◎	
調査書		○				
	作品（美）	◎		◎		
	運動歴調査書（体）	◎				

◎は、より重点的に見る項目を示しています。

◎ 地域科学部

<教育理念・目標>

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

<求める学生像>

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. 物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3. 自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5. 幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

<学力の3要素について>

本学部は、学力の3要素のどの要素も重視しています。知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、その他の要素を相互に関連付け、相互に補い合うように学んでいくことを期待しています。

[知識・技能]

人間・社会の営みや自然との関わりに基礎的な知識、技能を持っている。

[思考力・判断力]

さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考えることができる。

自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。

[表現力]

他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現できる能力を持っている。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現できる能力を持っている。

[その他の要素]

人間・社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。

学力の3要素等		知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	その他の要素
選抜方法	センター試験	○	○	—	—	—
	英語または数学	○	○	○	○	○
	小論文	○	○	○	○	○
	面接	○	○	○	○	○

◎ 医学部 医学科

<教育理念>

岐阜大学医学部医学科は、人間、自然、社会に対する豊かな感性と洞察力を持って教育・研究・臨床に邁進しています。その理念の下に医学の基礎と高度な専門知識・技能を有し、世界と地域の医療・医学の発展に貢献できる優れた医療人・医学研究者を育成することを最大の使命としています。

<求める学生像>

1. 広い視野と豊かな教養を持ち、医学の修得に必要な基礎知識と学習スキルを持つ人
2. 自ら考えて積極的に行動し、その結果を省察できる人
3. 協調性に富み、相手の立場を尊重しつつ、自らの考えを表現できる人
4. 向上心を持ち、仲間とともに生涯にわたり学ぶ意欲と探究心を持つ人
5. 地域や国際社会で貢献する意志を持つ人
6. 責任感と倫理感が強く、人間性豊かで、生命に対する畏敬の念を持つ人

<学力の3要素について>

[知識・技能]

広い視野と豊かな教養を持ち、医学の修得に必要な基礎知識と学習スキルを持つ人

[思考力・判断力]

自ら考えて積極的に行動し、その結果を省察できる人

[表現力]

協調性に富み、相手の立場を尊重しつつ、自らの考えを表現できる人

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

- (a) 向上心を持ち、仲間とともに生涯にわたり学ぶ意欲と探究心を持つ人
- (b) 地域や国際社会で貢献する意志を持つ人
- (c) 責任感と倫理観が強く、人間性豊かで、生命に対する畏敬の念を持つ人

学力の3要素		知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度		
					(a)	(b)	(c)
選抜方法	センター試験	○	○				
	個別学力試験	○	○				
	面接		○	○	○	○	○
	小論文	○	○	○	○	○	○
	調査書等	○			○	○	○

◎ 医学部 看護学科

<教育理念・目標>

看護学科は、看護学をはじめ保健・医療・福祉の各分野に貢献できる人間性豊かで倫理観に富む資質の高い看護の専門職を養成するとともに、看護学の教育研究の推進も目指します。

少子高齢社会の到来や疾病構造の変化など、保健・医療・福祉分野が担う役割は複雑化、高度化しています。さらに活躍の場は医療施設にとどまらず、地域へと拡大しています。看護学科では、保健・医療・福祉に関する深い関心を持った学生を求めています。以下のような資質が必要となります。

<求める学生像>

- ・看護学の修得に必要なかつ十分な基礎的な知識・技能及び教養を持っている人
- ・身につけている知識・教養をもとに多角的に物事をとらえ、論理的に思考し、判断ができる能力を持っている人
- ・他者の意見や気持ちを理解できるように努め、自己の考えを的確に表現し、伝える能力を持っている人
- ・看護をはじめ様々な学問分野に興味・関心を持ち、真実を知ろうという科学的探求心に富み、自己学習意欲が旺盛である人
- ・他者の意見を傾聴し、相手を尊重しながら互いに協力して学ぶことができる人
- ・自己の心身の健康に留意し行動できる力を持っている人

<学力の3要素について>

[知識・技能]

看護学の修得に必要なかつ十分な基礎的な知識・技能及び教養を持っている人

[思考力・判断力]

身につけている知識・教養をもとに多角的に物事をとらえ、論理的に思考し、判断ができる能力を持っている人

[表現力]

他者の意見や気持ちを理解できるように努め、自己の考えを的確に表現し、伝える能力を持っている人

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

- ・看護をはじめ様々な学問分野に興味・関心を持ち、真実を知ろうという科学的探求心に富み、自己学習意欲が旺盛である人
- ・他者の意見を傾聴し、相手を尊重しながら互いに協力して学ぶことができる人

[その他の要素]

自己の心身の健康に留意し行動できる力を持っている人

学力の3要素等		知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	その他の要素
選抜方法	入試区分					
センター試験	一般(前期・後期)	○	○			
個別学力試験	一般(前期)	○	○	○		
小論文	一般(前期), 推薦Ⅰ, 社会人		○	○	○	○
面接	一般(前期), 推薦Ⅰ, 社会人		○	○	○	○
調査書	推薦Ⅰ	○			○	○

◎ 工学部

<教育目的>

工学部では、社会、自然、文化等に対する深い見識、優れた感性及び健全な心を養います。同時に、専門特化型から幅広い総合型まで、多様な個性に合った能力を育みます。これにより、人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成を目指します。

<求める学生像>

本学部では、21世紀の社会を支える先端的な工業技術に対する深い関心があり、以下のような資質を持った学生を求めています。

1. 先端的な工学の理解に必要な数学・理科に関する基礎的学力を十分に備えている人
2. 理解力に富み、論理的な思考ができるだけでなく、柔軟性があり、新しい発想ができる人
3. 相手の意見に耳を傾け、自分が伝えたいことを表現できる人
4. 知的好奇心にあふれ、自主的な勉学意欲に富む人
5. 国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力を備えている人

多様な入試を実施し、個性の異なる学生を受け入れて積極的に活性化を図っています。

<学力の3要素について>

[知識・技能]

先端的な工学の理解に必要な数学・理科に関する基礎的学力を十分に備えている人

[思考力・判断力]

理解力に富み、論理的な思考ができるだけでなく、柔軟性があり、創造性豊かな発想ができる人

[表現力]

相手の意見に耳を傾け、自分が伝えたいことを表現できる人

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

知的好奇心にあふれ、自主的な勉学意欲に富む人

[その他の要素]

国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力を備えている人

学力の3要素等		知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体性・多様性・協働性	その他の要素
選抜方法	入試区分					
センター試験	一般, 推薦Ⅱ	○	○			
個別学力試験	一般	○	○	○		
面接	推薦Ⅱ		○	○	○	○
調査書	推薦Ⅱ	○	○		○	

◎ 応用生物科学部

<求める学生像>

応用生物科学部は、応用生物科学の学理を修得し、生物産業の発展や持続可能な生物生産、人間を含む生態系の保全および人と動物との共生などの分野で活用することによってより良い社会を実現したいと考える学生を求めています。

このためには、大学での学修に必要な基礎知識や技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協同性など資質が必要です。応用生物科学部では、これらの資質を多様な入試制度で判定し、応用生命科学課程、生産環境科学課程及び共同獣医学科の具体的な目標の達成のために強い意欲を持って学習に励む人材を受け入れます。

<学力の3要素について>

[知識・技能]

応用生物科学の学理の理解に必要な基礎能力

[思考力・判断力]

科学的な思考、科学的な根拠に基づいた適切な判断

[表現力]

相手の意見に耳を傾け、自分の考えを的確に伝える

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

課題に対する知的好奇心、独創的な取り組み、他者との協働

学力の3要素		知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体性・多様性・協働性
選抜方法	入試区分				
センター試験	一般, 推薦Ⅱ	◎	○		
個別学力試験	一般	○	◎	○	
面接	推薦Ⅰ, Ⅱ		○	◎	◎
小論文	推薦Ⅰ, Ⅱ	○	◎	◎	○
調査書	推薦Ⅰ, Ⅱ	○			○

◎は特に重視している項目を示しています。

Ⅱ 募集人員

学部・学科等名			入学定員	募 集 人 員					
				一 般 入 試		特 別 入 試			
				前期日程	後期日程	推薦入学Ⅰ	推薦入学Ⅱ	社会人	帰国生
教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	国語教育	24 ^人	19 ^人	5 ^人				
		※1 社会科教育	36	28		8			
		数学教育	24	16	8				
		※1 理科教育	36	20	16				
		音楽教育	12	8	4				
		美術教育	10	6		4			
		保健体育	16	7	7	2			
		技術教育	10	6	4				
		家政教育	12	8	4				
		英語教育	24	14	10				
		学校 教育	心理学コース	15	10	5			
	教職基礎コース	11	7	4					
	小計	230	149	67		14			
特別支援学校教員養成課程	20	15	5						
計	250	164	72		14				
地 域 科 学 部	地域政策学科	(50)							
	地域文化学科	(50)	60	21	6	10	2	1	
	計 ※2	100	60	21	6	10	2	1	
医 学 部	医学科	※3 110	32	35		※3 43			
	看護学科	80	47	20	10		3		
	計	190	79	55	10	43	3		
工 学 部	社会基盤 工学科	環境コース	60	13	14	ア) 2	イ) 2		
		防災コース		13	14	2			
	機械 工学科	機械コース	130	37	37	5	2		
		知能機械コース		23	23	3			
	化学・生命 工学科	物質化学コース	150	39	39	6	2		
		生命化学コース		30	30	4			
	電気電子・情報 工学科	電気電子コース		34	35	5			
		情報コース	170	32	32	5	3		
応用物理コース			11	11	2				
計	510	232	235		※4 43				
応 用 生 物 科 学 部	応用生命科学課程	80	54	10	6	10			
	生産環境科学課程	80	50	10	10	10			
	共同獣医学科	30	26			4			
	計	190	130	20	※5 16	24			
合 計	1,240	665	403	32	134	5	1		

(注)・ この表中、推薦入学Ⅰは大学入試センター試験を課さない推薦入試、推薦入学Ⅱは大学入試センター試験を課す推薦入試を示します。

【教育学部】

- ※1 a 教育学部の社会科教育講座及び理科教育講座の2講座には、それぞれ次の専攻があります。
- ① 社会科教育講座：「史学」、「地理学」及び「現代社会」の3専攻
 - ② 理科教育講座：「物理学」、「化学」、「生物学」及び「地学」の4専攻
- b 教育学部の一般入試（前期日程・後期日程）における上記aの2講座の合格者については、合格者発表時において、志願者の専攻の志望順位及び試験成績を考慮し、各講座の募集人員をそれぞれ1／4（現代社会専攻は1／2）を目安に、各専攻に割り振ります。（社会科教育講座については、推薦入学の合格者を考慮）
- c 教育学部の推薦入学Ⅱ特別入試では、社会科教育講座については史学専攻、地理学専攻は各2人、現代社会専攻は4人を募集します。

【地域科学部】

- ※2 地域科学部の入試は学科の区別をせず学部単位で行います。
所属学科は2年次後学期に専門セミナーの選択を通じて決定します。

【医学部】

- ※3 医学部医学科の推薦入学Ⅱ特別入試の募集人員43人には、地域枠推薦28人を含みます。（38ページ参照）
なお、地域枠推薦に係る定員は設置認可申請予定の人数であり、変更があり得ます。

【工学部】

- a 工学部の一般入試では、入学定員を学科ごとに定めていますが、学生募集はコースごとに行います。
- b 一般入試に出願する際に、志望することのできる学科は1つのみであり、その学科の中で複数コースを選択することが可能です。（複数の学科をまたいで志望することはできません。）
- ※4 工学部の推薦入学Ⅱ特別入試の募集人員は、「選抜の対象」により異なります。
選抜の対象 ア) 高等学校等の普通科又は理数に関する学科を卒業見込みの者：募集人員はコースごと
イ) 高等学校等の工業に関する学科を卒業見込みの者：募集人員は学科ごと
詳細は、40ページで確認してください。

【応用生物科学部】

- ※5 応用生物科学部の推薦入学Ⅰ特別入試について、応用生命科学課程の募集人員6人のうち3人及び生産環境科学課程の募集人員10人のうち5人は、スーパーサイエンスハイスクール・理数科枠の募集人員です。（42ページ参照）
- ・ 次の入試で欠員が生じた場合は、それぞれ指定の入試でその欠員を補充します。
 - a 教育学部の推薦入学Ⅱ特別入試の欠員→同学部の前期日程で補充
 - b 地域科学部の推薦入学Ⅰ及びⅡ並びに社会人及び帰国生特別入試の欠員→同学部の特別入試及び前期日程で補充
 - c 医学部医学科の推薦入学Ⅱ特別入試の欠員→同学科の前期日程で補充
 - d 医学部看護学科の推薦入学Ⅰ及び社会人特別入試の欠員→同学科の前期日程で補充
 - e 工学部の推薦入学Ⅱ特別入試の欠員→同学部の各コース別に前期日程で補充
 - f 応用生物科学部の推薦入学Ⅰ及びⅡ特別入試の欠員→同学部の各課程・学科別に前期日程で補充
 - ・ この表のほか、私費外国人留学生特別入試を実施します。（ただし、医学部看護学科及び応用生物科学部共同獣医学科を除く。47～48ページを参照）

Ⅲ 出願資格

1. 一般入試

本学に出願することができる者は、次のいずれかに該当し、かつ、志望する学部・学科・課程等が指定する平成30年度大学入試センター試験の教科・科目を受験した者です。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成30年3月までにこれに該当する見込みの者

(注)

上記の(3)に該当する者は、次のとおりです。

ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者（平成30年3月までに修了見込みの者を含む。）

又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（昭和56年文部省告示第153号）

イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者（平成30年3月までに修了見込みの者を含む。）

ウ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者（平成17年文部科学省告示第137号）

エ 文部科学大臣の指定した者〔昭和23年文部省告示第47号（大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定）〕

オ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（平成30年3月までに合格見込みの者を含む。）で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの

カ 大学入学資格検定に合格した者

キ 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

ク 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの

(備考)

○ 本学では、大学入試センター試験の前年度以前の成績は利用しません。

○ 上記の「ク」については、「Ⅳ 岐阜大学入学資格審査」を参照してください。

○ 障害等のある志願者で、事前の相談を希望する方は、「Ⅴ 障害等のある者の出願にあたっての事前相談」を参照してください。

2. 特別入試

35～48 ページを参照してください。

IV 岐阜大学入学資格審査

Ⅳ 出願資格 1. (3) (注)ク (学校教育法施行規則第 150 条第 7 号) により大学入試センター試験又は岐阜大学へ出願する者については、事前に個別の入学資格審査を受け、入学資格を認められた場合に限り出願を認めます。

1. 申請期間及び申請書類の送付先等

本学の個別の入学資格審査により入学資格の認定を受けようとする者は、大学入試センター試験又は社会人特別入試の出願期間初日の 10 日前までに申請するものとします。

なお、本学の一般入試に出願する者で本学の入学資格審査を受けていない者は、大学入試センター試験を受験した者に限り、一般入試出願期間初日の 3 日前までに申請することができるものとします。

申請書類を郵送する場合は、必ず簡易書留郵便とし封筒表面に「大学入学資格認定書交付申請」と朱書きしてください。

申請先 〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

岐阜大学学務部入試課 あて

2. 入学資格審査の対象者

ア 高等学校段階を有する外国人学校を卒業した者又は卒業見込みの者で、平成 30 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの

イ ア以外の者であっても、各種の学校などでの学習歴、社会での実務経験等が、高等学校を卒業した者の学力と同等以上であると認められる者で、平成 30 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの

3. 申請手続

次の書類を添え、申請してください。

(1) 共通の書類

- ① 入学資格認定書交付申請書 (本学所定の用紙)
- ② 返信用封筒 (申請者の宛先を明記し、速達簡易書留による切手を貼付してください。)

(2) 前項のアに該当する者

- ① 最終学校の卒業 (修了) 証明書又は卒業 (修了) 見込み証明書
- ② 高等学校に対応する学校の課程に在学している者は、当該学校の学則 (修業年限、授業科目、標準単位数、週当たり授業時数及び年間授業週数が明示されたもの)
- ③ 教科・科目の履修状況 (調査書に準じたもの)

(3) 前項のイに該当する者

- ① 学習等の履歴書
- ② 各種の学校などでの学習歴、社会での実務経験等が客観的に確認できる書類

4. 本学所定の用紙の請求方法

入学資格認定書交付申請書の用紙を請求する場合は、返信用封筒として「長形3号封筒（縦23.5cm×横12.0cm）」にあなたの受信住所、郵便番号、氏名を記入の上、82円切手を貼付し、これを折りたたんでも構いませんので、定形内の封筒に入れ、表に「入学資格認定書交付申請書請求」と朱書きし、岐阜大学学務部入試課へ申し込んでください。

5. 審査方法等

審査請求があったときは申請書類により速やかに審査を開始します。

6. 審査基準

- ① 当該学校の教育内容等が高等学校学習指導要領に準じているかを精査し、高等学校と同等以上であるかを審査します。

当該学校の年間及び週当たりの授業時間数、履修する主要教科・科目及び卒業までに必要な単位数が、高等学校学習指導要領に定める標準授業時数、すべての生徒に履修させる各教科・科目及び卒業までに習得させる単位数と同等以上であること。

- ② 申請者の学習歴及び社会での実績等について精査し、高等学校卒業と同等以上の学力があること。

7. 資格審査の結果

資格審査の結果は、速やかに申請者あてに郵送により通知します。入学資格を認められた者については、「岐阜大学入学資格認定書」を同封します。

8. 大学入試センター試験及び岐阜大学入学者選抜試験の受験

「岐阜大学入学資格認定書」の交付を受けた者は、大学入試センター試験及び本学の入学者選抜試験に出願し受験することができます。

出願の際は、必ず岐阜大学入学資格認定書の写を添付してください。

V 障害等のある者の出願にあたっての事前相談

本学では、障害等のある志願者が、受験上及び修学上において不利となることがないように必要な配慮を行っており、そのための相談を次のとおり受け付けています。

相談の内容によっては対応に時間を要することがありますので、相談の期限にかかわらず、できるだけ早く相談してください。

1. 相談の期限

一般入試志願者：願書受付開始日の4日前まで

特別入試（推薦入学Ⅱ特別入試）志願者：願書受付開始日の2週間前まで

特別入試（推薦入学Ⅰ特別入試，社会人特別入試，帰国生特別入試，
私費外国人留学生特別入試）志願者
：当該入試の願書受付開始日の1か月前まで

注：日常生活においては、ごく普通に使用されている補聴器，松葉杖，車椅子等を使用して受験する場合も，試験場設定や他の配慮との関係から受験上の配慮として申請が必要です。

なお，事前相談は，障害等のある志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき，受験及び修学に関して，よりよい方法及び在り方を模索するためのもので，入試結果の判定において不利になることはありません。

2. 相談の方法

本学所定の用紙「障害者等受験・修学上の配慮申請書」及び大学入試センター試験受験上の配慮事項決定通知書（写し・該当者のみ）に医師の診断書及び障害者手帳（写し・該当者のみ）を添付し，志望する学部の学務係に提出してください。（所在地，電話番号等は裏表紙参照）

なお，必要な場合には，志願者又は関係者との面談等を行うことがあります。

3. 本学所定の用紙の請求方法

用紙は，岐阜大学のホームページからダウンロードすることができます。

郵便で用紙を請求する場合は，封筒の表に「障害者等受験・修学上の配慮申請書請求」と朱書きし，82円分の切手を貼った返信用封筒（長形3号封筒（縦23.5cm×横12.0cm））を同封し，以下の＜請求先＞に送付してください。

※同封の返信用封筒には，あなたの住所，郵便番号，氏名（宛名）を明記してください。返信用封筒は折りたたんで構いません。

＜請求先＞

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学学務部入試課 [電話 058-293-2156, 2157] 又は，各学部の学務係
（所在地，電話番号等は裏表紙参照）

4. 相談の期限後に生じた不慮の事故等による場合

相談の期限後に不慮の事故等により障害を有することとなった場合は、至急志望する学部の学務係へ問い合わせてください。

VI 入学者選抜方法等

1. 一般入試の入学者選抜方法等

一般(前期・後期)

大学入試センター試験、個別学力検査等及び調査書により、総合的に判定します。

学部・学科等名			選抜方法等	個別学力検査等							個別学力検査等の日程		
				個別学力検査を課する	実技検査等				2段階選抜				
					実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	大学入試センター試験の第1段階選抜合格者数 について必要な検査を行う	第1段階の選抜による合格者数 対する募集人員に倍率		その他	
教育学部	学校教育教員養成課程	国語教育 社会科教育 数学教育 理科教育 技術教育 家政教育 英語教育 学校教育	前期日程	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日(日) 実技検査 2月26日(月)	
		音楽教育 保健体育		○	○	×	×	×	×	×	×		
		美術教育		○	○	○	×	×	×	×	×		
	特別支援学校 教員養成課程	○	×	×	×	×	×	×	×				
	学校教育教員養成課程	国語教育 数学教育 理科教育 技術教育 家政教育 英語教育 学校教育	後期日程	○	×	×	×	×	×	×	×		3月12日(月)
				音楽教育 保健体育	×	○	×	×	×	×	×		
特別支援学校 教員養成課程				○	×	×	×	×	×	×	×		
地域科学部	地域政策学科 地域文化学科 ※1	前期日程	○	×	×	○	×	×	×	×	2月25日(日)		
		後期日程	×	×	×	○	×	×	×	×	3月12日(月)		

※1 地域科学部の入試は学科の区別をせず学部単位で行います。

一般（前期・後期）

大学入試センター試験，個別学力検査等及び調査書により，総合的に判定します。

学部・学科等名		選抜方法等	個別学力検査等								個別学力検査等の日程
			個別学力検査を課する	実技検査等				2段階選抜			
				実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行い，必要に応じて検査を行う	第1段階の選抜による合格者数	募集人員に対する倍率	
医学部	医学科	前期日程	○	×	○	×	×	○	約15倍	×	2月25日（日） 面接 2月26日（月）
		後期日程	○	×	○	×	×	○	約15倍	×	3月12日（月） 面接 3月13日（火）
	看護学科	前期日程	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日（日）
		後期日程	×	×	○	○	×	×	×	×	3月12日（月）
工学部	社会基盤工学科 機械工学科 化学・生命工学科 電気電子・情報工学科	前期日程	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日（日）
		後期日程	○	×	×	×	×	×	×	×	3月12日（月）
応用生物科学部	応用生命科学課程 生産環境科学課程	前期日程	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日（日）
		後期日程	○	×	×	×	×	×	×	×	3月12日（月）
	共同獣医学科	前期日程	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日（日）

【全学部共通事項】

- ・当初合格者で入学手続を完了した者が入学定員に満たない場合は，追加合格を行うことがあります。
- ・追加合格を行っても，なお入学手続を完了した者が入学定員に満たない場合は，欠員補充第2次募集を行うことがあります。

◎ 出願期間及び合格者発表日

- ・出願期間（前期・後期日程） 1月22日（月）～ 1月31日（水）
- ・合格者発表日（前期日程） 3月6日（火）
- ・合格者発表日（後期日程） 3月21日（水）

2. 特別入試の入学者選抜方法等

学部・学科等名		選抜方法等	アドミツション・オフィス入試	推 薦 入 試							推薦入試募集人員	専門・高校・総合学科卒業生入試	帰国生・社会人等のための特別入試			備 考
				入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する									帰国生	中国引揚者等	社会人	
				実 技 検 査 等												
				個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課する	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する	実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	その他						
教育学部	学校教育 教員養成 課程	社会科教育(史学)								2人				(注1) 作品5点以 内を持参 (注2) 運動歴調査 を提出		
		社会科教育(地理学)	○	×	×	○	×	×	×	2人						
		社会科教育(現代社会)	×			※3					4人	×	×		×	
		美術教育							○(注1)	4人						
		保健体育	○	×	×	○	×	×	○(注2)	2人						
地域科学部	地域政策学科 地域文化学科 ※1		×	○	×	○	○	×	×	6人				(推薦Ⅰ特別入試)		
			○	×	×	○	×	×	×	10人	×	○	×	○	(推薦Ⅱ特別入試)	
医学部	医学科	×	○	×	×	○	○	×	×	※2 43人	×	×	×	×	(推薦Ⅱ特別入試)	
	看護学科	×	×	○	×	○	○	×	×	10人	×	×	×	○	(推薦Ⅰ特別入試)	
工学部	社会基盤 工学科	環境コース								ア) 2人 イ) 2人					(推薦Ⅱ特別入試)	
		防災コース								2人						
	機械工学科	機械コース								5人						
		知能機械コース								3人						
	化学・生命 工学科	物質化学コース	×	○	×	×	○	×	×	×	6人	×	×	×		×
		生命化学コース					※3				2人					
※4 電気電子・ 情報工学科	電気電子・ 情報工学科	電気電子コース								5人						
		情報コース								5人	3人					
		応用物理コース								2人						
応用生物科学部	※5 応用生命科学課程 生産環境科学課程 応用生命科学課程 生産環境科学課程 共同獣医学科	応用生命科学課程	×	○	×	○	○	×	×	6人					(推薦Ⅰ特別入試)	
		生産環境科学課程								10人						
		応用生命科学課程	×								10人	×	×	×	×	(推薦Ⅱ特別入試)
		生産環境科学課程		○	×	×	○	○	×	×	10人					
		共同獣医学科									4人					

※1 地域科学部の入試は学科の区別をせず学部単位で行います。

※2 医学部医学科の推薦入学の募集人員43人には、地域枠推薦28人を含みます。(38ページ参照)

なお、地域枠推薦に係る定員は設置認可申請予定の人数であり、変更があり得ます。

※3 教育学部社会科教育(史学、地理学のみ)、工学部の面接は、口述試験等を含みます。

※4 工学部の推薦入学の募集人員は、「選抜の対象」により異なります。ア) 高等学校等の普通科又は理数に関する学科を卒業見込みの者：募集人員は学科ごと(40ページ参照)
イ) 高等学校等の工業に関する学科を卒業見込みの者：募集人員は学科ごと(40ページ参照)

※5 応用生物科学部の推薦入学Ⅰ(大学入試センター試験を課さない推薦入試)について、応用生命科学課程の募集人員6人のうち3人及び生産環境科学課程の募集人員10人のうち5人は、スーパーサイエンスハイスクール・理数科枠の募集人員です。(41ページ参照)

・ この表のほか、私費外国人留学生特別入試を実施します。(ただし、医学部看護学科及び応用生物科学部共同獣医学科を除く。47～48ページを参照)

3. 一般入試の実施教科・科目及び配点等

学部 及び [平成29年度 教育学部 250人 前期 後期 その他 14	学科等 及び [平成29年度 教育学部 24人 前期 後期 その他 5	学力検査 等の区分 ・日程 前期 2月25日 後期 3月12日	教科 科目名 等 国 世B, 日B, 地理B (注) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 (注) 数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基, 物, 化, 生, 地学 (注) 英 (注) 「地理歴史・公民から2及び 理科から1」又は「地理歴史・公民 から1及び理科から2」 ※1, ※2 (→P.22) [5教科7科目, 5教科8科目, 6教 科7科目又は6教科8科目]	個別学 力検査 等 等 2段階 選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別の入 試方法等 外国人	
					教科等 科目名 等 国語総合 イ (数I・数A・数II・数B) 又は ロ (数I・数A・数II・数B・数III) のどちらからか1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I [3教科のうち2教科を選択]	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 小論文 実技 面接	配点 合計		備考
					センター試験	100	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	450	*印 から 2つ 選択	外国人
					個別学力検査等	* (200)			* (200)					400		
					計	(300) 100	100 50	100 50	(300) 100	50 100	100 100	100 100	100 100	850		
					センター試験	100	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	450		外国人
					個別学力検査等	400								400		
					計	500	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	850		
					センター試験	100	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	450	*印 から 2つ 選択	外国人
					個別学力検査等	* (200)			* (200)					400		
					計	(300) 100	100 50	100 50	(300) 100	50 100	100 100	100 100	100 100	850		
					センター試験	100	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	450		外国人
					個別学力検査等	* (200)			* (200)					400		
					計	(300) 100	100 50	100 50	(300) 100	50 100	100 100	100 100	100 100	850		
					センター試験	100	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	450		外国人
					個別学力検査等	* (200)			* (200)					400		
					計	(300) 100	100 50	100 50	(300) 100	50 100	100 100	100 100	100 100	850		
					センター試験	100	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	450		外国人
					個別学力検査等	* (200)			* (200)					400		
					計	(300) 100	100 50	100 50	(300) 100	50 100	100 100	100 100	100 100	850		
					センター試験	100	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	450		外国人
					個別学力検査等	* (200)			* (200)					400		
					計	(300) 100	100 50	100 50	(300) 100	50 100	100 100	100 100	100 100	850		
					センター試験	100	100 50	100 50	100	50 100	100	100	100	450		外国人
					個別学力検査等	* (200)			* (200)					400		
					計	(300) 100	100 50	100 50	(300) 100	50 100	100 100	100 100	100 100	850		

学部・入学年度 及び[平成29年度 教育学部 [5.5]	学科等 名等 定員 [志願倍率]	学力検査 等の区分 ・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 教科		個別学力検査等 科目名 等	2段階 選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別の入 試方法等		
			国語	歴史 公民			数学	理科	外国語 実技	小論文	総合 問題	面接	配点 合計	備考					
250人 前期 後期 その他 14	理科教育 36人 前期 後期 16	前期 2月25日	国語 歴史 公民 数学 理科 外国	世B, 日B, 地理B (注) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 (注) 数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基, 物, 化, 生, 地学 (注) 英 (注) 「地理歴史・公民から2及び 理科から1」又は「地理歴史・公民 から1及び理科から2」 ※1, ※2 (→P.22) [5教科7科目, 5教科8科目, 6教 科7科目又は6教科8科目]	国語総合 イ (数I・数A・数II・数B) 又は ロ (数I・数A・数II・数B・数III) のどちらからか1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I [数必須, 国又は外のどちらからかを選択]					100	100 50	100	50 100	100	100 100	100	450	*印 から 1つ 選択	外国人
		後期 3月12日								100	100 50	100	50 100	100	100 100	100	450		
	音楽教育 12人 前期 後期 4	前期 2月25日	国語 歴史 公民 数学 理科 外国	世B, 日B, 地理B (注) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 (注) 数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基, 物, 化, 生, 地学 (注) 英 (注) 「地理歴史・公民から2及び 理科から1」又は「地理歴史・公民 から1及び理科から2」 ※1, ※2 (→P.22) [5教科7科目, 5教科8科目, 6教 科7科目又は6教科8科目]	実技検査 国語総合 イ (数I・数A・数II・数B) 又は ロ (数I・数A・数II・数B・数III) のどちらからか1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I [実技必須, 3教科のうち1教科を選 択]				100	100 50	100	50 100	100	100 100	100	450	*印 から 1つ 選択	外国人	
		後期 3月12日								100	100 50	100	50 100	100	100 100	100	450		
	美術教育 10人 前期 後期 その他 4	前期 2月25日	国語 歴史 公民 数学 理科 外国	世B, 日B, 地理B (注) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 (注) 数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基, 物, 化, 生, 地学 (注) 英 (注) 「地理歴史・公民から2及び 理科から1」又は「地理歴史・公民 から1及び理科から2」 ※1, ※2 (→P.22) [5教科7科目, 5教科8科目, 6教 科7科目又は6教科8科目]	実技検査 面接 国語総合 イ (数I・数A・数II・数B) 又は ロ (数I・数A・数II・数B・数III) のどちらからか1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I [実技, 面接必須, 3教科のうち1教 科を選択]				100	100 50	100	50 100	100	100 100	100	450	*印 から 1つ 選択	外国人	
		後期								100	100 50	100	50 100	100	100 100	100	450		

学部・学入学及び [平成29年度 教育学部 [5.5]	学科等 英語教育 前期 24人 14 後期 10 その他 164 72 14	学力検査 等の区分 ・日程 前期 2月25日 後期 3月12日	大学入試センター試験の利用教科・科目名 教科		個別学力検査等 科目名 等 2段階 選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別の入 試方法等			
			国 語 地 理 公 民 数 理 外 国 語	歴 史		地 理	公 民	数 学	理 科	外 国 語	実 技	小 論 文	合 計	面 接	合 計		備 考		
教育学部 [5.5]	英語教育 前期 24人 14 後期 10 その他 164 72 14	前期 2月25日	国 語 地 理 公 民 数 理 外 国 語	世B, 日B, 地理B (注) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 (注) 数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基, 物, 化, 生, 地学 (注) 英 (注) 「地理歴史・公民から2及び 理科から1」又は「地理歴史・公民 から1及び理科から2」 ※1, ※2 (→P.22) [5教科7科目, 5教科8科目, 6教 科7科目又は6教科8科目]	国語総合 イ (数I・数A・数II・数B) 又は ロ (数I・数A・数II・数B・数III) のどちらか1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I [3教科のうち2教科を選択]	100	100 50	50 100	100 100	50 100	100	100	100	100	100	450	450	*印 か ら 2 つ 選 択	外 国 人
		後期 3月12日	国 語 地 理 公 民 数 理 外 国 語	世B, 日B, 地理B (注) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 (注) 数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基, 物, 化, 生, 地学 (注) 英 (注) 「地理歴史・公民から2及び 理科から1」又は「地理歴史・公民 から1及び理科から2」 ※1, ※2 (→P.22) [5教科7科目, 5教科8科目, 6教 科7科目又は6教科8科目]	国語総合 イ (数I・数A・数II・数B) 又は ロ (数I・数A・数II・数B・数III) のどちらか1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I [3教科のうち2教科を選択]	100	100 50	50 100	100 100	50 100	100	100	100	100	100	450	450	*印 か ら 2 つ 選 択	外 国 人
特別支援 学校教員 養成課程	特別支援 学校教員 養成課程	前期 2月25日	国 語 地 理 公 民 数 理 外 国 語	世B, 日B, 地理B (注) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 (注) 数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基, 物, 化, 生, 地学 (注) 英 (注) 「地理歴史・公民から2及び 理科から1」又は「地理歴史・公民 から1及び理科から2」 ※1, ※2 (→P.22) [5教科7科目, 5教科8科目, 6教 科7科目又は6教科8科目]	国語総合 イ (数I・数A・数II・数B) 又は ロ (数I・数A・数II・数B・数III) のどちらか1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I [3教科のうち1教科を選択]	100	100 50	50 100	100 100	50 100	100	100	100	100	450	450	*印 か ら 1 つ 選 択	外 国 人	
		後期 3月12日	国 語 地 理 公 民 数 理 外 国 語	世B, 日B, 地理B (注) 現社, 倫, 政経, 倫・政経 (注) 数I・数A 数II・数B, 簿・会, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基, 物, 化, 生, 地学 (注) 英 (注) 「地理歴史・公民から2及び 理科から1」又は「地理歴史・公民 から1及び理科から2」 ※1, ※2 (→P.22) [5教科7科目, 5教科8科目, 6教 科7科目又は6教科8科目]	国語総合 イ (数I・数A・数II・数B) 又は ロ (数I・数A・数II・数B・数III) のどちらか1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I [3教科のうち1教科を選択]	100	100 50	50 100	100 100	50 100	100	100	100	100	450	450	*印 か ら 1 つ 選 択	外 国 人	

学部・学入年度 及び入学者等 [平成29年度 工学部 [4.0]	学科等 名等 [定員 等 志願倍率]	学力検査 等の区分 ・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 等		個別学 力 検 査 等	2段階 選 抜		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別の入 試方法等 推薦 外国人
			教科	科目名 等		教科等	科目名 等	試験の区分	国語	地歴 (1科目選択)	公民	数学	理科	外国語	実技	小論文	総合 問題	
510人 前期 232 後期 235 その他 43	社会基盤工学科 環境コース 30人 前期 13 後期 14 その他 3 防災コース 30人 前期 13 後期 14 その他 3	前期 2月25日	国 世A, 世B, 日A, 日B, } 地理A, 地理B } 公民 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } 教 I・教A } 教 II・教B, 情報から1 } 理 外 英, 独, 仏, 中, 韓から1 } [5教科7科目]	教 理 外 教 I・教A・教II・教B・教III 物基・物 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I	センター試験	200	100 (1科目選択)	200	200	200	200						500	
		後期 3月12日				センター試験	200	100 (1科目選択)	200	200	200						500	
510人 前期 232 後期 235 その他 43	機械工学科 機械コース 80人 前期 37 後期 37 その他 6 知能機械 コース 50人 前期 23 後期 23 その他 4	前期 2月25日	国 世A, 世B, 日A, 日B, } 地理A, 地理B } 公民 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } 教 I・教A } 教 II・教B, 情報から1 } 理 外 英, 独, 仏, 中, 韓から1 } [5教科7科目]	教 理 外 教 I・教A・教II・教B・教III 物基・物 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・英語表現I	センター試験	200	100 (1科目選択)	200	200	200						500		
		後期 3月12日				センター試験	200	100 (1科目選択)	200	200	200						500	

学部・学定員等 及び入学生数 [平成29年度 [3.6]	学科等 学定員等 [平成29年度 [3.6]	学力検査 等の区分 ・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等 2段階 選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別の入 試方法等			
			教科	科目名等		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	実技	小論文	総合 問題		面接	配点 合計	備考
応用生物 科学部 [3.6] 190人 前期 後期 その他 40	応用生命科学課程 80人 前期 後期 その他 10 16	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	世A,世B,日A,日B, 地理A,地理B 現社,倫,政経,倫・政経 教I・教A 物,化,生,地から2 英,独,仏,中,韓から1 [5教科7科目]	数 理	教I・教A・教II・教B 物基・物,化基・化,生基・生から1	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	200	200	250				950	*印 か ら 1 つ 選 択	推 外 国 人
		後期 3月12日	理 外	物基・物,化基・化,生基・生から1	200	*100	*100	200	200	250				400				400	
生産環境科学課程 80人 前期 後期 その他 20	前期 後期 その他 10 20	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	世A,世B,日A,日B, 地理A,地理B 現社,倫,政経,倫・政経 教I・教A 物,化,生,地から2 英,独,仏,中,韓から1 [5教科7科目]	教 理	教I・教A・教II・教B 物基・物,化基・化,生基・生から1	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	200	200	250				950	*印 か ら 1 つ 選 択	推 外 国 人
		後期 3月12日	理 外	物基・物,化基・化,生基・生から1	200	*100	*100	200	200	250				400				400	
共同獣医学科 30人 前期 後期 その他 4	前期 後期 その他 26 0 4	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	世A,世B,日A,日B, 地理A,地理B 現社,倫,政経,倫・政経 教I・教A 教II・教B 物,化,生,地から2 英,独,仏,中,韓から1 [5教科7科目]	理 外	物基・物,化基・化,生基・生から1 コミュニケーション英語I・コミュニ ケーション英語II・コミュニケーショ ン英語III・英語表現I	センター試験 個別学力検査等	200	*100	*100	200	200	200				900	*印 か ら 1 つ 選 択	推 薦
		後期	理 外	物基・物,化基・化,生基・生から1	200	*100	*100	200	200	200				400				400	
		後期		募集しない			200	*100	*100	200	400	400	400				1300		

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- 1 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。
（「情報関係基礎」においては、職業教育を主とする農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する科目を履修した者）
- 2 「外国語」のうち、「英語」は、「筆記試験」と「リスニングテスト」の双方を課します。筆記試験を受験し、リスニングテストを受験しなかった場合は、リスニングテストの得点は0点となります。ただし、リスニングテストが免除となる受験上の配慮決定者については、筆記試験の得点を「英語」として各学部が定める配点に換算します。
- 3 「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合は、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできません。
- 4 ※1 教育学部、医学部看護学科の志願者が、「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合は、「地理歴史」から1科目、「公民」から1科目の選択となります。
- 5 この説明文中において、理科の基礎を付した科目を「理科①」、基礎を付していない科目を「理科②」と表します。
- 6 ※2 「理科①」は2科目で1とします。
理科から1の場合は、(1)「理科①」から2科目、(2)「理科②」から1科目のいずれかとなります。理科から2の場合は、(3)「理科①」から2科目及び「理科②」から1科目、(4)「理科②」から2科目のいずれかとなります。なお、(3)の場合は、同一名称を含む科目は選択できません。
- 7 ※3 「理科①」は2科目で1とします。
理科から1の場合は、(1)「理科①」から2科目、(2)「理科②」から1科目のいずれかとなります。理科から2の場合は、(3)「理科②」から2科目とします。

【個別学力検査等】欄

「数学」

数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲの範囲：全範囲（ただし、数Ⅰは「データの分析」を除く。）

数Aの範囲：「場合の数と確率」、「図形の性質」（「整数の性質」に関しては、小学校の算数と中学校の数学で学んだ知識を前提として問うこともある。）

数Bの範囲：「数列」、「ベクトル」

「理科」

物基・物の範囲：物理基礎、物理の全範囲。化基・化の範囲：化学基礎、化学の全範囲。生基・生の範囲：生物基礎、生物の全範囲。

【2段階選抜】欄

医学部医学科は、前期日程・後期日程試験において志願者数が募集人員の約15倍を超えた場合、個別学力試験を適切に実施するため、大学入試センター試験の成績（前期日程・後期日程試験で用いる科目・配点に同じ、満点前期日程800点、後期日程400点）により第1段階選抜を行います。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- 1 「地理歴史、公民」、「理科②」において、指定科目数を1科目としている場合の2科目受験者の取扱いについては、第1解答科目の得点を採用します。（なお、第2解答科目の得点は一切採用しないので、学部・学科等が指定する科目を第2解答科目で受験した場合、出願無資格者となりますので御注意ください。）
- 2 教育学部、地域科学部及び医学部看護学科の志願者で、「地理歴史、公民」、「理科②」をいずれも2科目ずつ計4科目受験した場合は、「地理歴史、公民」と「理科②」の各々の第1解答科目の得点と、第2解答科目のいずれか高得点を採用します。
- 3 教育学部、地域科学部の志願者で、「地理歴史、公民」から2科目、「理科①」から2科目及び「理科②」から1科目受験した場合は、以下の(1)～(3)の得点を採用します。
(1)「地理歴史、公民」の第1解答科目の得点、(2)「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のいずれか高得点、(3)「地理歴史、公民」の第2解答科目の得点と(2)で採用しなかった科目の得点のいずれか高得点。

- 4 医学部看護学科の志願者で、「地理歴史、公民」から2科目、「理科①」から2科目及び「理科②」から1科目受験した場合は、以下の(1)～(3)の得点を採用します。
- (1) 「地理歴史、公民」の第1解答科目の得点、(2) 「理科①」の2科目の得点と「理科②」の1科目の得点のいずれか高得点、(3) 「地理歴史、公民」の第2解答科目の得点。
- 5 大学入試センター試験の「外国語」における「英語」は、筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)の合計得点を各学部が定める配点に換算します。ただし、リスニングテストが免除となる受験上の配慮決定者については、筆記試験の得点を各学部が定める配点に換算します。また、地域科学部、工学部及び応用生物科学部については、「英語」以外の外国語は筆記試験(200点満点)の得点を各学部が定める配点に換算します。
- 6 ※4 面接は、総合判定の資料(配点なし)とし、医学科のアドミッション・ポリシーに適合しないと判定した場合は、総合点にかかわらず不合格とします。

【教育学部の専攻】

教育学部の次の2講座には、それぞれ専攻があります。

①社会科学教育講座：「史学」、「地理学」、「現代社会」の3専攻

教育学部の一般入試(前期日程)における上記の講座の合格者については、合格者発表時において、志願者の専攻の志望順位及び試験成績を考慮し、募集人員の1/4(現代社会専攻は1/2)を目安に、推薦入学の合格者数を考慮して、各専攻に割り振ります。

②理科教育講座：「物理学」、「化学」、「生物学」及び「地学」の4専攻

教育学部の一般入試(前期日程・後期日程)における上記の講座の合格者については、合格者発表時において、志願者の専攻の志望順位及び試験成績を考慮し、募集人員の1/4を目安に、各専攻に割り振ります。

【各学部・学科等の入試における特色】

教育学部

〔前期日程・後期日程〕

卒業後に教師として必要となる幅広い基礎的学力を問うべく、センター試験を問うべく、センター試験を課します。個別学力検査では、前期日程において英語、数学、国語から2教科(音楽教育講座及び保健体育講座は関連する実技と1教科、美術教育講座は関連する実技に加え面接と1教科)、後期日程においては英語、数学、国語、理科(物理・化学・生物)から1教科(実技系は関連する実技)の試験を課し、教育学部で学ぶのに必要な論理的思考力(実技系は実技能力)を持つ学生の入学を期待しています。

高等学校における学習では、履修する教科・科目の基礎的理解と同時に、入学を希望する分野をより深く理解しようとする資質を評価します。実技系においては、基礎的实践能力を評価します。

地域科学部

〔前期日程〕

地域科学部で学ぶのに必要な基礎学力を判定するため、大学入試センター試験を課しています。

個別学力試験では、数学または英語(どちらかを選択)、および小論文試験を課しています。前者は、高校で学んだ数学または英語の学力を評価します。また、後者は、読解力や論理的思考力・表現力、関心の広さ、着眼点などを評価します。

高校で履修しているどの授業も大切に、幅広く学んでおくこと、さらに、豊富な読書体験を積んでおくことを勧めます。

〔後期日程〕

地域科学部で学ぶのに必要な基礎学力を判定するため、大学入試センター試験を課しています。

個別学力試験では、小論文試験を課しています。小論文試験では、読解力や論理的思考力・表現力、関心の広さ、着眼点などを評価します。

高校で履修しているどの授業も大切に、幅広く学んでおくこと、さらに、豊富な読書体験を積んでおくことを勧めます。

医学部医学科

〔前期日程・後期日程〕

大学入試センター試験で幅広い基礎学力を問ひ、個別学力試験（数学・理科（2科目）・外国語（英語））を課すことによって、理数系の能力と応用力、英語力を問ひ、論理的思考と問題解決能力に秀でた学生を選抜します。

また、医療人・医学研究者となるにふさわしい資質・適性をみるために面接を行います。

医学部看護学科

〔前期日程〕

人を愛し生命を尊び、全ての人々の健康の向上に寄与する看護職になるために必要な総合的基礎学力を評価するために大学入試センター試験と個別学力検査として国語又は数学、英語を実施します。

〔後期日程〕

人を愛し生命を尊び、全ての人々の健康の向上に寄与する看護職になるために必要な総合的基礎学力さらに目的意識、社会への関心、表現力を評価するために大学入試センター試験と個別学力検査として小論文、面接を実施します。

工学部

〔前期日程・後期日程〕

大学入試センター試験では国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科を課し、受験する者がこれまでに身につけた基礎学力の評価を行います。個別学力検査では、工学を学ぶ上で不可欠な数学と理科（物理又は化学）並びに工学技術者として必須である英語を課し、大学入試センター試験と個別学力検査の合計点により合格者を決定します。

基礎学力に加えて理解力・応用発展能力がどれだけあるかを評価するため個別試験に重きを置き、大学入試センター試験と個別学力検査の配点比率は、前期日程を 500:1000、後期日程を 500:1500とします。

応用生物科学部

〔前期日程〕

一般的学力の高い学生を選抜する入試ですので、幅広く学習をしてきた者を対象としています。

大学入試センター試験と個別学力検査を課し、応用生命科学課程及び生産環境科学課程においては理数系に秀でた者、共同獣医学科においては理科及び英語力を備えた者を求めています。

〔後期日程〕

応用生命科学課程及び生産環境科学課程で実施しています。

一般的に学力の高い学生を選抜する入試ですので、幅広く学習してきた者を対象とし、特に理科についての関心・学力を備えた者を求めています。

大学入試センター試験と個別学力検査により評価します。個別学力検査では理科1科目を課し、応用生物科学の基礎となる理科に関する学力を判定します。

4. 大学入試センター試験の受験を要する教科等
(1) 一般入試
ア 前期日程

学部	受験を要する教科										科目			合計														
	国語		地理歴史		公民		数学		理科		外国語																	
	国	語	世	界	史	地	理	倫	理	現	代	社	会		数	学	数	学	理	科	英	日	独	法	中	韓		
教育学部	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎							5~6 教科
	1	理	科	が	2	の	場	合	は	1, 理	科	が	1	の	場	合	は	2	1	理	科	◎						7~8 科目
地域政策学 地域文化学 科 (入試は学部 単位で実施)	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎						5~6 教科	
	1	理	科	が	2	の	場	合	は	1, 理	科	が	1	の	場	合	は	2	1	理	科	◎						7~8 科目
医学科	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎						5教科 7科目	
	1	理	科	が	2	の	場	合	は	1, 理	科	が	1	の	場	合	は	2	1	理	科	◎						7科目
看護学部	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎						5教科 7科目, 6教科 7~8 科目	
	1	理	科	が	2	の	場	合	は	1, 理	科	が	1	の	場	合	は	2	1	理	科	◎						7~8 科目

イ 後期日程

学部		受験を要する教科科目										合															
		国語		地理歴史		公民		数学		理科			外国語														
学部	等	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理	現代社会	倫理政治・経済	倫理政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学②	情報関係基礎	理科①	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	理科②	地学	英語	ドイツ語	フランス語	韓国語		
教育学部		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	◎					5～6 教科
教育学部		1	理科が2の場合は1, 理科が1の場合は2								1	1	1													7～8 科目	
地域政策学科 地域文化学科 (入試は学部 単位で実施)		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5～6 教科	
医学部		1	理科が2の場合は1, 理科が1の場合は2								1	1														7～8 科目	
医学部		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎										◎				5教科 7科目	
看護学部		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										◎				5教科 7科目, 6教科 7～8 科目	

学部		受験を要する教科・科目										合計						
		地理歴史		公民		数学		理 科		外国語								
工 学 部	等	世界史 A	世界史 B	日本史 A	日本史 B	現代社会	政治・経済	倫理、政治・経済	数学 I	数学 II	数学②	理科①	理科②	英語	ドイツ語	フランス語	韓国語	
		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	△	○	○	○	○	○
1		1							1	1		2		1			5教科	
◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	△	○	○	○	○	○	○	○
1		1							1	1		2		1			5教科	
募集しない																		

- (注) 1 ◎印は必須科目、○印は選択科目を表し、△印は指定された者のみ選択解答できる科目を表します。
- 2 「地理歴史、公民」、「理科②」において、指定科目数を1科目としている場合は2科目受験者の取扱いについては、第1解答科目の得点を採用します。
(なお、第2解答科目の得点は一切採用しないので、学部・学科等が指定する科目を第2解答科目で受験した場合、出願無資格者となりますので御注意ください。)
- 3 教育学部、地域科学部及び医学部看護学科の志願者で、「地理歴史、公民」、「理科②」をいずれも2科目ずつ計4科目受験した場合は、「地理歴史、公民」と「理科②」の各々の第1解答科目の得点と、第2解答科目のいずれか高得点を採用します。
- 4 教育学部、地域科学部の志願者で、「地理歴史、公民」から2科目、「理科①」から1科目及び「理科②」から1科目受験した場合は、以下の(1)～(3)の得点を採用します。(1)「地理歴史、公民」の第1解答科目の得点、(2)「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のいずれか高得点、(3)「地理歴史、公民」の第2解答科目の得点と(2)で採用しなかった科目の得点のいずれか高得点
- 5 医学部看護学科の志願者で、「地理歴史、公民」から2科目、「理科①」から1科目及び「理科②」から1科目受験した場合は、以下の(1)～(3)の得点を採用します。(1)「地理歴史、公民」の第1解答科目の得点、(2)「理科①」の2科目の得点と「理科②」の1科目の得点のいずれか高得点、(3)「地理歴史、公民」の第2解答科目の得点
- 6 「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合は、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできません。
- 7 なお、教育学部、医学部看護学科の志願者が、「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合は、「地理歴史」から1科目、「公民」から1科目の選択となります。
「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)においてこれら2科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。(「情報関係基礎」においては、職業教育を主とする農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する科目を履修した者)
- 8 「外国語」のうち、「英語」は、「筆記試験」と「リスニングテスト」の双方を課します。筆記試験を受験し、リスニングテストを受験しなかった場合は、リスニングテストの得点は0点となります。ただし、リスニングテストが免除となる受験上の配慮決定者については、筆記試験の得点を「英語」として各学部が定める配点に換算します。

(2) 推薦入学Ⅱ特別入試

学部		受験を要する教科・科目											合計																				
		国語	地理歴史			公民		数学		理科				外国語																			
選抜対象者	選抜対象学科等	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	理科①	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	理科②	地学	生物	化学	物理学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語		
教育学部	社会科教育(史学) 社会科教育(地理学) 社会科教育(現代社会) 美術教育 保健体育	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎					5~6 教科	
地域科学部	地域政策学科 地域文化学科 (入試は学部 単位で実施)	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1 科目
医学部	医学科	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎					5教科 7科目	

- (注) 1 ◎印は必須科目、○印は選択科目を表し、△印は指定された者のみ選択解答できる科目を表します。
- 2 「地理歴史、公民」、「理科②」において、指定科目数を1科目としている場合は、第1解答科目の得点を採用します。(なお、第2解答科目の得点は一切採用しないので、学部・学科等が指定する科目を第2解答科目で受験した場合は、出願無資格者となりますので御注意ください。)
- 3 教育学部、地域科学部の志願者で、「地理歴史、公民」、「理科②」をいずれも2科目ずつ計4科目受験した場合は、「地理歴史、公民」と「理科②」の各々の第1解答科目の得点と、第2解答科目のいずれか高得点を採用します。
- 4 教育学部、地域科学部の志願者で、「地理歴史、公民」から2科目、「理科①」から2科目及び「理科②」から1科目受験した場合は、以下の(1)～(3)の得点を採用します。(1)「地理歴史、公民」の第1解答科目の得点、(2)「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のいずれか高得点、(3)「地理歴史、公民」の第2解答科目の得点と(2)で採用しなかった科目の得点のいずれか高得点
- 5 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)においてこれらの科目を履修した者に限ります。(「情報関係基礎」においては、職業教育を主とする農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する科目を履修した者)
- 6 「外国語」のうち、「英語」は、「筆記試験」と「リスニングテスト」の双方を課します。筆記試験を受験し、リスニングテストを受験しなかった場合は、リスニングテストの得点は0点となります。ただし、リスニングテストが免除となる受験上の配慮決定者については、筆記試験の得点を「英語」として各学部が定める配点に換算します。
- 7 「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合は、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできません。
- 8 教育学部の志願者が、「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合は、「地理歴史」から1科目、「公民」から1科目の選択となります。
- 9 工学部の志願者のうち工業に関する学科を卒業見込みの者で、複数の教科・科目を受験している場合の得点は次のとおり採用します。
- 「国語」「地理歴史」及び「公民」(※印のついた教科)の場合
- ・「地理歴史、公民」において2科目を受験している場合は、第1解答科目の得点を採用します。
 - ・「国語」と「地理歴史、公民」の両方を受験している場合は、「国語」と上記の第1解答科目の得点を比較し、得点の高い方を採用します。
- 「理科②」の場合
- ・2科目を受験している場合には、第1解答科目の得点を採用します。学科が指定する科目を第1解答科目で受験してください。
- 9 応用生物科学部の志願者で、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」を選択できる者は、高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)の専門学科若しくは総合学科を卒業見込みの者に限ります。
- なお、専門学科とは、農業等に関する学科をいいます。普通科、理数科、英語科等の在籍者は対象とならないので、これら以外の専門教育を主とする学科に在籍する志願者は、出願前に応用生物科学部学務係へ問い合わせてください。
- また、総合学科とは、卒業に必要な単位のうち職業に関する教科・科目について、25単位以上修得見込みのものをいいます。

5. 一般入試の実技検査・小論文・面接

○ 教育学部 (前期日程) 実技検査

前1) 音楽実技 次の3種類の検査を行う。

種目	内 容	注 意 事 項	楽譜コピー (○:要, ×:不要)
1	ソルフェージュ ----- 新曲視唱 (調号2つまで)		
2	声 楽 下記の歌曲の中から1曲を選び演奏する。 ----- イタリア歌曲 A. Scarlatti : Già il sole dal Gange (As-dur) F. P. Tosti : Malia (Es-dur) ドイツ歌曲 W. A. Mozart : An Chloë (Es-dur, C-dur) F. Schubert : An die Musik (D-dur, C-dur) 日本歌曲 山田耕柁 : からたちの花 (G-dur, Es-dur) 中田喜直 : さくら横ちょう (b-moll, g-moll)	① 伴奏者は本学で用意する。 ② 暗譜演奏すること。	×
3	器 楽 下記の(1), (2)のどちらかを選択する。 ----- (1) ピアノ演奏 下記の(イ), (ロ), (ハ)のうち1つを選び演奏する。 (イ) L. v. Beethoven 作曲の任意のピアノ・ソナタより第1楽章。 (ロ) J.S. Bach 作曲のインヴェンション・シンフォニアから任意の作品1曲。 (ハ) ロマン派, 近代 (1945年以前に作曲されたものとする) のピアノ作品より1曲。 ----- (2) 管楽器・弦楽器・打楽器及びピアノ演奏 A 任意の管楽器・弦楽器又は打楽器の独奏曲 (練習曲を含む) を演奏する。 B ピアノ演奏 上記の(1)と同じ課題とする。	① 反復は省略すること。 ② 暗譜演奏すること。 ③ 楽譜は特に指定しない。 A ① 検査当日は無伴奏とする。 ② 楽譜は見てもよい。 ③ 反復は省略すること。 ④ 楽曲の途中から演奏させることもある。 ⑤ 楽器は各自持参すること。 B 上記(1)ピアノ演奏の注意事項に同じ。	○ ((ハ) の場合) ○ ○ ((ハ) の場合)

共通注意事項

<提出物> 以下2点を他の出願書類と一緒に提出すること

- (a) 選択楽曲調書 (募集要項に封入) —— i) 楽曲名, ii) 調名, iii) 作曲者名 (原語で作曲者名を併記), iv) 楽譜の出版社名等を記入。
- (b) 「3器楽(1)ピアノ演奏 (ハ) ロマン派, 近代のピアノ作品」および「3器楽(2)管・弦・打楽器」を選択した場合は, その楽譜のコピー —— 受験者名, 作曲者名, 曲名を記入。

前2) 美術実技 次の実技検査を行う。

構想画 (自画像を雲のイメージと組み合わせた鉛筆画。四つ切り [380×540mm] 画用紙使用。)

- ① カルトン, 画用紙, 鏡は大学で用意する。
- ② 鉛筆, 練りゴム等の描画材を各自持参すること。
- ③ 実技検査は3時間。
- ④ 実技検査後に簡単な面接を行う。
- ⑤ 資料の持ち込みを許可する。
 - ・紙に描いたもの, または印刷したものに限る。
 - ・A4 [210×297mm] サイズ以下のものを3枚まで (両面使用可)。
 - ・パソコン, スマートフォン, デジタルカメラ等の電子機器は使用を許可しない。

前3) 体育実技 次の実技検査を行う。

- 1) 運動の基礎的能力検査
- 2) 運動の専門的能力検査 (陸上競技, 水泳, 器械運動, 柔道, 剣道, バレーボール, バスケットボール, ハンドボール, サッカー及びダンスのうちから1種目を選択する。)

○ 教育学部 (後期日程) 実技検査

後1) 音楽実技 次の2種目の検査を行う。

種目	内 容	注 意 事 項	楽譜コピー (○:要, ×:不要)
1	ピアノ弾き歌い 現行『小学校学習指導要領』が指定する歌唱共通教材から1曲を選び演奏する。	① 楽譜は見てもよい。 ② 伴奏形は自由である。	×
2	下記の(1), (2), (3)のいずれかを選択する。		
	(1) ピアノ演奏 自由曲:任意のピアノ曲から1曲を選び演奏する。	① 反復は省略すること。 ② 暗譜演奏すること。	○
	(2) 管楽器・弦楽器及びピアノ演奏 A 任意の管楽器又は弦楽器のための独奏曲 (練習曲を含む) を演奏する。	A ① 検査当日は無伴奏とする。 ② 楽譜は見てもよい。 ③ 反復は省略すること。 ④ 楽曲の途中から演奏させることもある。 ⑤ 楽器は各自持参すること。	○
	B ピアノ演奏 自由曲:任意のピアノ曲から1曲を選び演奏する。	B 上記(1)ピアノ演奏の注意事項に同じ。	○
	(3) 声楽及びピアノ演奏 A 下記の歌曲の中から1曲を選び演奏する。 イタリア歌曲 G. B. Pergolesi :Nina (e-moll) ドイツ歌曲 R. Schumann :Die Lotosblume (F-dur, Es-dur) 日本歌曲 團伊玖磨 :ひぐらし (f-moll, d-moll)	A ① 伴奏者は本学で用意する。 ② 暗譜演奏すること。 ③ 楽曲の途中から演奏させることもある。	×
	B ピアノ演奏 自由曲:任意のピアノ曲から1曲を選び演奏する	B 上記(1)ピアノ演奏の注意事項に同じ。	○

共通注意事項

<提出物> 以下2点を他の出願書類と一緒に提出すること

(a) 選択楽曲調書 (募集要項に封入) —— i) 楽曲名, ii) 調名, iii) 作曲者名 (原語で作曲者名を併記), iv) 楽譜の出版社名等を記入。

(b) 「2 (1)ピアノ演奏」および「2 (2)管・弦楽器及びピアノ演奏」を選択した場合は, その楽譜のコピー —— 受験者名, 作曲者名, 曲名を記入。

<口頭試問> 演奏終了後, 実技試験に関連した口頭試問を行うことがある。

後2) 体育実技 次の実技検査を行う。

- 1) 運動の基礎的能力検査
- 2) 運動の専門的能力検査 (陸上競技, 水泳, 器械運動, 柔道, 剣道, バレーボール, バスケットボール, ハンドボール, サッカー及びダンスのうちから1種目を選択する。)

○ 地域科学部 (前期日程, 後期日程) 小論文

テーマの的確な把握, 論理的な思考力等をみるために行う。特定の教科の学力を問うものではない。

○ 医学部医学科 (前期日程・後期日程) 面接

面接は, 総合判定の資料 (配点なし) とし, 医学科のアドミッション・ポリシーに適合しないと判定した場合は, 総合点にかかわらず不合格とします。

○ 医学部看護学科 (後期日程) 小論文・面接

小論文: 与えられた課題に対する理解力, 論理的思考力及び文章表現力等を総合的にみるために行う。特定の教科の学力を検査するものではない。

面接: 看護への適性をみるために行う。

6. 特別入試の入試方法等

(1) 推薦入学特別入試

教育・推Ⅱ

実施学部	教 育 学 部	
入試種別	推 薦 入 学 Ⅱ (大学入試センター試験を課す選抜)	
実施課程, 講座 (専攻) 及び 募集人員	学校教育教員養成課程 社会科教育(史学) 2人 社会科教育(地理学) 2人 社会科教育(現代社会) 4人 美術教育 4人 保健体育 2人	
出願要件	次のいずれかに該当し, 出願要件のすべてを満たす者で, 「平成30年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち, 本学部が指定する教科・科目を受験するもの a) 平成30年3月高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)を卒業見込みの者 b) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設(高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。)の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者	
	人物及び学力が優秀であり, 志望課程及び専攻に対する能力, 素質, 適性等について在籍学校(教育施設)長が責任をもって推薦し, 合格した場合には入学することを確約できる者で, 次の要件を満たしていること。 学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上の者	
入試方法等	推薦書, 志望理由書, 調査書, 大学入試センター試験の成績及び面接(社会科教育のうち史学と地理学は口述試験等を含む)により総合的に判定する。	
	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
	教科	科目名等
	①国 地歴 公民 数 理 外 英	次の①又は②のどちらか 国 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から2 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿・会, 情報から1 理①(物基, 化基, 生基, 地学基), 理②(物, 化, 生, 地学) から1 (6教科7科目又は6教科8科目)
②国 地歴 公民 数 理 外 英	国 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿・会, 情報から1 理①(物基, 化基, 生基, 地学基), 理②(物, 化, 生, 地学) から2 (5教科7科目又は5教科8科目)	
注1 「地理歴史, 公民」, 「理科②」において, 指定科目数を1科目としている場合の2科目受験者の取扱いについては, 第1解答科目の得点を採用します。(第2解答科目の得点は一切採用しないため, 指定する科目を第2解答科目で受験した場合は出願無資格となりますので御注意ください。) 2 「地理歴史, 公民」, 「理科②」をいずれも2科目ずつ計4科目受験した場合は, 「地理歴史, 公民」と「理科②」の各々の第1解答科目の得点と, 第2解答科目のいずれか高得点を採用します。 3 「地理歴史, 公民」から2科目, 「理科①」から2科目及び「理科②」から1科目受験した場合は, 以下の(1)～(3)の得点を採用します。 (1) 「地理歴史, 公民」の第1解答科目の得点, (2) 「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のいずれか高得点, (3) 「地理歴史, 公民」の第2解答科目の得点と(2)で採用しなかった科目の得点のいずれか高得点 4 「地理歴史, 公民」から2科目を受験する場合は, 「地理歴史」から1科目, 「公民」から1科目の選択となります。 5 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる者は, 高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)においてこれらの科目を履修した者に限ります。(「情報関係基礎」については, P. 32を参照) 6 「理科①」については, 2科目で1とします。 理科から1の場合は, (1) 「理科①」から2科目, (2) 「理科②」から1科目のいずれかとします。理科から2の場合は, (3) 「理科①」から2科目及び「理科②」から1科目, (4) 「理科②」から2科目のいずれかとします。なお, (3)の場合は, 同一名称を含む科目は選択できません。		
出願期間	平成29年12月13日(水)～15日(金)	
入試期日	平成30年1月20日(土) 大学入試センター試験の再試験又は追試験を受験する者に対しては, 入試期日を配慮するので, 事前にその旨申し出ること	
合格者発表日	平成30年2月6日(火)	
その他	個別学力検査は課さない。	
	1 1校からの推薦者数は, 社会科教育講座は2人(ただし1専攻には1人以内), 美術教育講座は2人, 保健体育講座は1人以内 2 美術教育講座を志望する者は, 作品5点以内を持参してください。 3 保健体育講座を志望する者は, 運動歴調書を提出してください。	

教育・推Ⅱ

〔学部・講座の入試における特色〕

面接では、希望する分野の基礎的理解・実践能力・論理的思考・コミュニケーション能力などを総合的に判断します。

高等学校における学習では、履修する教科・科目の基礎的理解と同時に、入学を希望する分野をより深く理解しようとする資質を評価します。実技系においては、基礎的実践能力を評価します。

地域・推Ⅰ

実施学部	地 域 科 学 部
入 試 種 別	推 薦 入 学 Ⅰ (大学入試センター試験を課さない選抜)
実施学科及び募集人員	〔 地域政策学科，地域文化学科 2学科合計 6人 入試は学科の区別をせず学部単位で行います。 所属学科は2年次後学期に専門セミナーの選択を通じて決定します。 〕
出 願 要 件	平成30年3月高等学校（中等教育学校高等部を含む。）の専門学科又は総合学科，及び特別支援学校高等部を卒業見込みの者 ※ 専門学科については，職業教育を主とする学科に在籍する者とする。普通科，理数科，英語科等の在籍者は対象とならない。特別支援学校高等部については学科を限定しない。 人物及び修学姿勢において秀で，本学部に対する意欲，適性等について在籍学校長が責任をもって推薦し，合格した場合には入学することを確約できる者で，次の要件を満たしていること。 学校長が発行する調査書の学習成績概評がA段階の者
入 試 方 法 等	推薦書，志望理由書，調査書，小論文及び面接により総合的に判定する。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水）～ 6日（月）
入 試 期 日	平成29年11月11日（土）
合 格 者 発 表 日	平成29年11月24日（金）
そ の 他	個別学力検査は課さない。同一の専門学科等からの推薦者数は，2人以内

〔学部・学科の入試における特色〕

対象は，高等学校（中等教育学校高等部を含む。）の専門学科又は総合学科，及び特別支援学校高等部を卒業見込みの者です。

小論文試験と面接試験により，読解力や論理的思考力・表現力，関心の広さ，着眼点，学習意欲，問題意識などを評価します。

高校で履修しているどの授業も大事にし，幅広く学んでおくこと，さらに，豊富な読書体験を積んでおくことを勧めます。

実施学部	地域科学部	
入試種別	推薦入学Ⅱ (大学入試センター試験を課す選抜)	
実施学科及び募集人員	地域政策学科，地域文化学科 2学科合計 10人 〔 入試は学科の区別をせず学部単位で行います。 所属学科は2年次後学期に専門セミナーの選択を通じて決定します。 〕	
出願要件	次のいずれかに該当し，出願要件のすべてを満たす者で，「平成30年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち，本学部が指定する教科・科目を受験するもの a) 平成30年3月高等学校（中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。）を卒業見込みの者 b) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。）の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者	
	人物及び修学姿勢において秀で，本学部に対する意欲，適性等について在籍学校（教育施設）長が責任をもって推薦し，合格した場合には入学することを確約できる者。	
入試方法等	推薦書，志望理由書，調査書，大学入試センター試験の成績及び面接により総合的に判定する。	
	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
	教科	科目名等
	①国 地歴 公民 数 理 外	次の①又は②のどちらか 国 世A，世B，日A，日B，地理A，地理B } から2 現社，倫，政経，倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B，簿・会，情報から1 理①（物基，化基，生基，地学基），理②（物，化，生，地学）から1 英，独，仏，中，韓から1 (5教科7科目，5教科8科目，6教科7科目又は6教科8科目)
②国 地歴 公民 数 理 外	国 世A，世B，日A，日B，地理A，地理B } から1 現社，倫，政経，倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B，簿・会，情報から1 理①（物基，化基，生基，地学基），理②（物，化，生，地学）から2 英，独，仏，中，韓から1 (5教科7科目又は5教科8科目)	
注1 「地理歴史，公民」，「理科②」において，指定科目数を1科目としている場合の2科目受験者の取扱いについては，第1解答科目の得点を採用します。 2 「地理歴史，公民」，「理科②」をいずれも2科目ずつ計4科目受験した場合は，「地理歴史，公民」と「理科②」の各々の第1解答科目の得点と，第2解答科目のいずれか高得点を採用します。 3 「地理歴史，公民」から2科目，「理科①」から2科目及び「理科②」から1科目受験した場合は，以下の(1)～(3)の得点を採用します。 (1)「地理歴史，公民」の第1解答科目の得点，(2)「理科①」の2科目の合計得点と「理科②」の1科目の得点のいずれか高得点，(3)「地理歴史，公民」の第2解答科目の得点と(2)で採用しなかった科目の得点のいずれか高得点 4 「地理歴史，公民」から2科目を受験する場合は，同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできません。 5 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる者は，高等学校（中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者に限ります。（「情報関係基礎」については，P. 32を参照） 6 「理科①」については，2科目で1とします。 理科から1の場合は，(1)「理科①」から2科目，(2)「理科②」から1科目のいずれかとします。理科から2の場合は，(3)「理科①」から2科目及び「理科②」から1科目，(4)「理科②」から2科目のいずれかとします。なお，(3)の場合は，同一名称を含む科目は選択できません。		
出願期間	平成29年12月13日（水）～15日（金）	
入試期日	平成30年1月20日（土）	
合格者発表日	平成30年2月6日（火）	
その他	個別学力検査は課さない。1校からの推薦者数は，3人以内 大学入試センター試験の再試験又は追試験を受験する者に対しては，入試期日を配慮するので，事前にその旨申し出ること	

〔学部・学科の入試における特色〕

地域科学部で学ぶのに必要な基礎学力を判定するため，大学入試センター試験を課しています。

また，面接試験では，論理的思考力・表現力や関心の広さ，着眼点，学習意欲，問題意識などを評価します。

高校で履修しているどの授業も大事にし，幅広く学んでおくこと，さらに，豊富な読書体験を積んでおくことを勧めます。

医学・推Ⅱ

実施学部	医 学 部	
入 試 種 別	推 薦 入 学 Ⅱ (大学入試センター試験を課す選抜)	
	一般推薦	地域枠推薦
実施学科及び募集人員	医 学 科 15人	医 学 科 28人 (募集人員は設置認可申請予定の人数であり、変更があり得ます。)
選 抜 の 対 象	次のいずれかに該当し、出願要件のすべてを満たす者 a) 平成30年3月高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)を卒業見込みの者 b) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設(高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。)の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者	高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)を平成30年3月卒業見込みの者、あるいは平成29年3月卒業の者(外国の高等学校に留学したため、平成29年4月1日以降、学年の途中において、あるいは学期の区分に従い高等学校の卒業を認められた者を含む。)で、次の①、②のいずれかに該当し、出願要件のすべてを満たすもの ① 岐阜県内の高等学校であること。 ② 他県の高等学校の場合は、在学期間中の3年間岐阜県内に居住し、居住地から通学していること。
	人物及び学力が優秀であり、志望学科に対する能力、素質、適性等について在籍学校(教育施設)長が責任をもって推薦し、合格した場合には入学することを確約できる者で、次の要件を満たしていること。	人物及び学力が優秀であり、岐阜県の地域医療に貢献したいという強い意志を持ち、能力、素質、適性等について在籍(卒業)学校長が責任をもって推薦し、合格した場合には入学することを確約できる者で、次の要件をすべて満たしていること。
出 願 要 件	学校長が発行する調査書の学習成績概評がA段階の者	出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がA段階の者で以下のことを確約するもの ・入学後、岐阜県医学生第1種修学資金を受給すること。 ・卒業後、2年間の初期臨床研修を岐阜県内で行い、その後岐阜県内の医療機関において指定されたプログラムで業務に従事(*)すること。
	「平成30年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち、本学部・学科が指定する教科・科目を受験した者	
入 試 方 法 等	大学入試センター試験に基準点を設け、基準点以上を得た受験者の中から、推薦書、志望理由書、調査書、大学入試センター試験の成績、小論文及び面接により総合的に判定する。 ※それぞれの詳細な選抜方法等は、推薦入学Ⅱ特別入試募集要項(11月下旬公表予定)を参照してください。 大学入試センター試験の基準点は、一般推薦は配点の85%、地域枠推薦は配点の80%です。	
	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
	教科	科 目 名 等
国 地歴 公民 数 理 外	国 世B、日B、地理B 倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B 物、化、生から2 英 (5教科7科目)	注)「地理歴史、公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。(第2解答科目の得点は一切採用しないため、指定する科目を第2解答科目で受験した場合は出願無資格者となりますので御注意ください。)
出 願 期 間	平成30年1月17日(水)～19日(金)	
入 試 期 日	平成30年1月24日(水)・[25日(木) 志願者多数の場合の予備日]	
合 格 者 発 表 日	平成30年2月6日(火)	
そ の 他	個別学力検査は課さない。	・個別学力検査は課さない。 ・1高等学校からの推薦者数は、7人まで。 (*) ・岐阜県医学生修学資金(第1種)を受給し、卒業後一定の期間、指定されたプログラムにより勤務することが要件。その場合、修学資金の返還が免除される。 ・岐阜県医学生修学資金および返還免除条件については、岐阜県の医学生修学資金 Web ページを参照してください。

[学部・学科の入試における特色]

大学入試センター試験で幅広い基礎学力を問い、面接及び小論文により、人間性豊かで表現力に富み、優れたリーダーシップを発揮できる学生を選抜します。

実施学部	医 学 部
入試種別	推 薦 入 学 I (大学入試センター試験を課さない選抜)
実施学科及び募集人員	看 護 学 科 10 人
出願要件	次のいずれかに該当し、出願要件のすべてを満たす者 a) 平成30年3月高等学校（中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。）を卒業見込みの者 b) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。）の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者
	人物及び学力が優秀であり、志望学科に対する能力、素質、適性等について在籍学校（教育施設）長が責任をもって推薦し、合格した場合には入学することを確約できる者で、次の要件を満たしていること。
	学校長が発行する調査書の学習成績概評がA段階の者
入試方法等	推薦書、志望理由書、調査書、小論文（英語での出題含む。）及び面接により総合的に判定する。
出願期間	平成29年11月1日（水）～ 6日（月）
入試期日	平成29年11月11日（土）
合格者発表日	平成29年11月24日（金）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試センター試験及び個別学力検査は課さない。 ・1校からの推薦者数は、2人以内

〔学部・学科の入試における特色〕

人を愛し生命を尊び、全ての人々の健康の向上に寄与する看護職になるために必要な基礎学力の程度と、看護への強い関心・意欲・探求心など看護職者としての適性を調査書、小論文、面接により総合的に判断します。

工学・推Ⅱ

実施学部	工 学 部					
入試種別	推 薦 入 学 Ⅱ (大学入試センター試験を課す推薦入試)					
	普通・理数に関する学科			工業に関する学科		
学科及び募集人員	社会基盤工学科	環境コース	2人	社会基盤工学科	環境コース	2人※
		防災コース	2人		防災コース	
	機械工学科	機械コース	5人	機械工学科	機械コース	2人※
		知能機械コース	3人		知能機械コース	
	化学・生命工学科	物質化学コース	6人	化学・生命工学科	物質化学コース	2人※
生命化学コース		4人	生命化学コース			
電気電子・情報工学科	電気電子コース	5人	電気電子・情報工学科	電気電子コース	3人※	
	情報コース	5人		情報コース		
	応用物理コース	2人		応用物理コース		
選抜の対象	次のいずれかに該当し、出願要件のすべてを満たす者 a) 平成30年3月高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)の普通科又は理数に関する学科を卒業見込みの者 b) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設(高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。)の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者			平成30年3月高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)の工業に関する学科を卒業見込みの者で、出願要件のすべてを満たすもの		
出願要件	人物及び学力が優秀であり、志望学科に対する能力、素質、適性等について在籍学校(教育施設)長が責任をもって推薦し、合格した場合には入学することを確約できる者で、次の要件を満たし、「平成30年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち、本学部が指定する教科・科目を受験するもの 学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上の者で、数学、理科及び外国語のうち1教科の評定平均値が4.0以上のもの					
総合学科在籍者の取扱い	工業に関する科目 25単位未満			工業に関する科目 25単位以上		
入試方法等	推薦書、志望理由書、調査書、大学入試センター試験の成績及び面接(口述試験等を含む)により総合的に判定する。					
	大学入試センター試験の利用教科・科目名					
	学科	教科	科目名等	学科	教科	科目名等
	社会基盤工学科	国 地歴 公民 数 理 外	国世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B 物 化, 生, 地学から1 (5教科7科目)	社会基盤工学科 機 械 工 学 科 電気電子・情報工学科	国 地歴 公民 数 理 外	国世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 情報から1 物 化 英 (4教科5科目)
機械工学科 電気電子・情報工学科	国 地歴 公民 数 理 外	国世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B 物 化 英 (5教科7科目)	化学・生命工学科	国 地歴 公民 数 理 外	国世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 情報から1 化 英 (4教科5科目)	
化学・生命工学科	国 地歴 公民 数 理 外	国世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B 物, 生から1 (5教科7科目)	注) 1 「国語」, 「地理歴史」及び「公民」において複数の教科・科目を受験している場合は、最高得点の科目を採用します。 なお, 「地理歴史, 公民」において2科目を受験している場合は、第1解答科目の得点を採用します。 また, 「理科②」において2科目を受験している場合は、第1解答科目の得点を採用します。(第2解答科目の得点は一切採用しないため、指定する科目を第2解答科目で受験した場合は出願無資格者となりますので御注意ください。) 2 「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)においてこの科目を履修した者に限ります。(「情報関係基礎」については、P. 32を参照)			
	注) 「地理歴史, 公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。					
出願期間	平成29年12月13日(水)～15日(金)					
入試期日	平成30年1月20日(土) 大学入試センター試験の再試験又は追試験を受験する者に対しては、入試期日を配慮するので、事前にその旨申し出ること					
合格者発表日	平成30年2月6日(火)					
その他	個別学力検査は課さない。					
	1校からの推薦者数は、各コース3人以内			1校からの推薦者数の制限は設けない ※1コースの合格者は最大2名まで		

[学部・学科の入試における特色]

高等学校の教育課程編成の違いに応じて、(1) 普通科又は理数に関する学科、(2) 工業に関する学科 の2種類の特別入試を行います。

いずれの入試も大学入試センター試験と面接により可否を判定します。それぞれの配点比率は(1)は950:400、(2)は400:400とし、高等学校における基礎学力の評価を行うとともに、面接により、受験者の工学に対する学修意欲・熱意・関心の程度などを重点的に評価します。大学入試センター試験の利用教科・科目は、(1)に一般入試と同じ5教科7科目、(2)に4教科5科目を課し、高等学校の教育課程編成の違いに配慮しています。

実施学部	応用生物科学部	
入試種別	推薦入学Ⅰ (大学入試センター試験を課さない推薦入試)	
	専門・総合学科枠	SSH・理数科枠
実施課程及び募集人員	応用生命科学課程 3人 生産環境科学課程 5人	応用生命科学課程 3人 生産環境科学課程 5人
選抜の対象	<p>次のいずれかにおいて理数科目を専門的に学習した者で、平成30年3月に高等学校を卒業見込みの者</p> <p>ア 文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受けている高等学校において、大学・研究機関と連携した先進的な理数教育や共同研究、理数教育に重点を置いたカリキュラム開発等に参画した者</p> <p>イ 理数科などの文部科学省が定める専門的な理数教育を実施する学科に在籍する者</p> <p>ウ イに準じて、普通科に設置された理数科目に重点を置くコースに在籍する者</p> <p>(注：ウで出願する者は、事前に要件を満たすかを判断するため、平成29年9月29日(金)までに、連絡先を明記して、在籍高等学校が作成したコースの概要及び履修カリキュラム表を応用生物科学部学務係へ送付すること)</p>	
出願要件	<p>人物及び学力が優秀であり、志望課程に対する能力、素質、適正等について在籍高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)長又は文部科学大臣認定等在外教育施設^{※(1)}の長が責任をもって推薦し、合格した場合には入学することを確約できる者で、次の要件を満たしていること。</p> <p>①平成30年3月高等学校(※(1)の教育施設の場合は、平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者)の専門学科^{※(2)}又は総合学科^{※(3)}を卒業見込みの者</p> <p>②学校長が発行する調査書の学習成績概評がA段階の者</p>	<p>人物及び学力が優秀であり、志望課程に対する能力、素質、適正等について在籍高等学校長が責任をもって推薦し、合格した場合には入学することを確約できる者</p> <p>調査書の学習成績概評は、出願基準を設けない。</p>
入試方法等	推薦書、志望理由書、調査書、小論文及び面接により総合的に判定する。	
	(小論文及び面接は、主に理科に関する基礎的な学力を判定する内容を含む。)	(小論文及び面接は、主に理科に関する学力及び科学的思考能力を判定する内容を含む。)
出願期間	平成29年11月1日(水)～6日(月)	
入試期日	平成29年11月13日(月)・14日(火)	
合格者発表日	平成29年11月24日(金)	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試センター試験及び個別学力検査は課さない。 ・1校から推薦できる人数に制限は設けません。 ・専門・総合学科枠の入学予定者は、入学前に補習教育を行います。 	

応生・推 I

専門・総合学科枠の出願要件について

※(1) 文部科学大臣認定等在外教育施設：文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。）

※(2) 専門学科：ア 専門教育を主とする学科のうち農業等に関する学科に在籍する者とする。
イ ア以外の学科に在籍の志願者は、出願前に応用生物科学部学務係へ問い合わせること。
ウ 普通科、理数科、英語科等の在籍者は対象とならない。

※(3) 総合学科：卒業に必要な単位のうち職業に関する教科・科目について、25 単位以上修得見込みの者とする。

(2), (3) について、文部科学大臣認定等在外教育施設の高等部にあつては、専門学科又は総合学科に相当する教育を行う課程に在籍する者とし、志願者は出願前に応用生物科学部学務係へ問い合わせること。

[学部・課程の入試における特色]

(専門・総合学科枠)

応用生命科学課程及び生産環境科学課程で実施しており、職業教育を主とする高等学校等において修得した成果を入学後さらに深め、生物資源の生産と活用、生態系や地球環境の保全、地域農業の指導等において、より高度な専門知識と技術を習得することに強い意志を有し、職業教育で得た経験を生かして優れたリーダーシップを発揮できる者を求めています。

(SSH・理数科枠)

応用生命科学課程及び生産環境科学課程で実施しており、学科に対する高い関心と優れた科学的な思考能力を有し、入学後、専門科目や研究において当該事業に関する下記の高等学校教育課程等で得た成果をさらに深め、より高度な専門知識と技術を習得することに強い意欲を有する者を求めています。

文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール事業の指定校において当該事業に関する教育課程等を修了する見込みの者及び理数科等の卒業見込み者が対象です。

実施学部	応用生物科学部			
入試種別	推薦入学Ⅱ (大学入試センター試験を課す推薦入試)			
実施課程及び募集人員	応用生命科学課程 生産環境科学課程	10人 10人	共同獣医学科	4人
出願要件	<p>人物及び学力が優秀であり、志望課程・学科に対する能力、素質、適正等について在籍学校(教育施設)長が責任をもって推薦し、合格した場合には入学することを確約できる者で、次のいずれかに該当し、「平成30年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち、本学部・学科が指定する教科・科目を受験するもの</p> <p>a) 平成30年3月高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)を卒業見込みの者</p> <p>b) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設(高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。)の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者</p>			
入試方法等	推薦書、志望理由書、調査書、大学入試センター試験の成績、小論文及び面接により総合的に判定する。			
	大学入試センター試験の利用教科・科目名			
	教科	科目名等	教科	科目名等
	<p>専門学科(農業等に関する学科等)・総合学科を卒業見込みの者</p> <p>数 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、簿・会、情報から1</p> <p>理 物基、化基、生基、地学基、物、化、生、地学から2</p> <p>外 英、独、仏、中、韓から1 (3教科5科目又は6科目)</p> <p>上記以外の者</p> <p>数 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B</p> <p>理 物、化、生、地学から2</p> <p>外 英、独、仏、中、韓から1 (3教科5科目)</p> <p>注) 1 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)においてこれらの科目を履修した者に限ります。「情報関係基礎」についてはP.32を参照</p> <p>2 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」を選択できる者は、高等学校等の専門学科^{※(1)}又は総合学科^{※(2)}を卒業見込みの者に限ります。基礎を付した科目については、2科目で1とします。</p> <p>(1) 基礎を付した科目から2科目及び基礎を付していない科目から1科目、(2) 基礎を付していない科目から2科目のいずれかとします。</p> <p>なお、(1)の場合は、同一名称を含む科目は選択できません。</p>	<p>国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B</p> <p>地歴 } から1</p> <p>公民 現社、倫、政経、倫・政経</p> <p>数 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B</p> <p>理 物、化、生、地学から2</p> <p>外 英、独、仏、中、韓から1 (5教科7科目)</p> <p>注) 「地理歴史、公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。</p>		
出願期間	平成29年12月13日(水)～15日(金)			
入試期日	平成30年1月25日(木)・26日(金)			
合格者発表日	平成30年2月6日(火)			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学力検査は課さない。 ・1校から推薦できる人数に制限は設けません。 			

※(1)専門学科：ア 専門教育を主とする学科のうち農業等に関する学科に在籍する者とする。
イ ア以外の学科に在籍の志願者は、出願前に応用生物科学部学務係へ問い合わせること。
ウ 普通科、理数科、英語科等の在籍者は対象とならない。

※(2)総合学科：卒業に必要な単位のうち職業に関する教科・科目について、25単位以上修得見込みの者とする。
(1)、(2)について、文部科学大臣認定等在外教育施設の高等部にあつては、専門学科又は総合学科に相当する教育を行う課程に在籍する者とし、志願者は出願前に応用生物科学部学務係へ問い合わせること。

[学部・課程の入試における特色]

高等学校等において優れた学業成績を修めた者を対象に、高度な専門的知識と技術の習得や地域社会への貢献を目指す、意欲ある者を求めています。

(2) 社会人特別入試

実施学部	地 域 科 学 部
入試種別	社 会 人 特 別 入 試
実施学科及び募集人員	地域政策学科, 地域文化学科 2学科合計 2人 [入試は学科の区別をせず学部単位で行います。 所属学科は2年次後学期に専門セミナーの選択を通じて決定します。]
出願要件	<p>平成30年4月1日現在満年齢25歳に達し、5年以上の社会人経験（家事・家業従事を含む。）を有し、次のいずれかの要件を満たしている者</p> <p>① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者</p> <p>② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者</p> <p>③ 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p> <p>(注)</p> <p>上記の③に該当する者は、次のとおりです。</p> <p>ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（昭和56年文部省告示第153号）</p> <p>イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。）の当該課程を修了した者</p> <p>ウ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者</p> <p>エ 文部科学大臣の指定した者〔昭和23年文部省告示第47号（大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定）〕</p> <p>オ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（平成30年3月までに合格見込みの者を含む。）</p> <p>カ 大学入学資格検定に合格した者</p> <p>キ 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの</p> <p>ク 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者</p>
入試方法等	小論文、面接及び出願書類により総合的に判定する。
出願期間	平成29年10月10日（火）～13日（金）
入試期日	平成29年11月11日（土）
合格者発表日	平成29年11月24日（金）
その他	大学入試センター試験及び個別学力検査は課さない。

[学部・学科の入試における特色]

対象は、社会経験を積み、大学で学ぶ意欲のある社会人です。

小論文試験と面接試験により、読解力や論理的思考力・表現力、関心の広さ、着眼点、学習意欲、問題意識などを評価します。

幅広い豊富な読書体験を積んでおくことを勧めます。

実施学部	医 学 部
入試種別	社会人特別入試
実施学科及び募集人員	看護学科 3人
出願要件	<p>平成30年4月1日現在満年齢23歳に達し、3年以上の社会人経験（家事・家業従事を含む。）を有し、次のいずれかの要件を満たしている者</p> <p>① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者</p> <p>② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者</p> <p>③ 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p> <p>（注）</p> <p>上記の③に該当する者は、次のとおりです。</p> <p>ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（昭和56年文部省告示第153号）</p> <p>イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。）の当該課程を修了した者</p> <p>ウ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者</p> <p>エ 文部科学大臣の指定した者〔昭和23年文部省告示第47号（大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定）〕</p> <p>オ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（平成30年3月までに合格見込みの者を含む。）</p> <p>カ 大学入学資格検定に合格した者</p> <p>キ 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの</p> <p>ク 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者</p>
入試方法等	志望理由書、履歴書、小論文（英語での出題を含む。）及び面接により総合的に判定する。
出願期間	平成29年11月1日（水）～ 6日（月）
入試期日	平成29年11月11日（土）
合格者発表日	平成29年11月24日（金）
その他	大学入試センター試験及び個別学力検査は課さない。

〔学部・学科の入試における特色〕

社会人としての経験者を対象に、人を愛し生命を尊び、全ての人々の健康の向上に寄与する看護実践能力と幅広い教養と豊かな人間性を身につけようとするに強い意欲を有する者を求めています。アドミッションポリシーに沿って総合的に評価するために、小論文、面接を実施します。

(3) 帰国生特別入試

実施学部	地 域 科 学 部
入試種別	帰 国 生 特 別 入 試
実施学科及び募集人員	地域政策学科，地域文化学科 2学科合計 1人 [入試は学科の区別をせず学部単位で行います。 所属学科は2年次後学期に専門セミナーの選択を通じて決定します。]
出願要件	<p>日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、外国の学校教育を受け、次の①～④のいずれかに該当する者</p> <p>① 外国の正規の学校教育における12年の課程（日本における通常の課程における学校教育の期間を含む。）を平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業（修了）又は卒業（修了）見込みの者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（昭和56年文部省告示第153号）</p> <p>ただし、12年の課程のうち、外国において最終学年を含めて2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けていること</p> <p>② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの</p>
入試方法等	小論文，面接及び出願書類により総合的に判定する。
出願期間	平成29年10月10日（火）～13日（金）
入試期日	平成29年11月11日（土）
合格者発表日	平成29年11月24日（金）
その他	大学入試センター試験及び個別学力検査は課さない。

[学部・学科の入試における特色]

小論文試験，面接試験により，読解力や論理的思考力・表現力，関心の広さ，着眼点，学習意欲，問題意識などを評価します。

各自の学校で履修しているどの授業も大事にし，幅広く学んでおくこと，さらに，豊富な読書体験を積んでおくことを勧めます。

(4) 私費外国人留学生特別入試

私費外国人留学生

実施学部等	教育学部	地域科学部	医学部医学科	工学部	応用生物科学部 応用生命科学課程 生産環境科学課程																		
募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名																		
出願資格	<p>1 日本国籍を有しない者</p> <p>2 出入国管理及び難民認定法に規定する「留学」の在留資格を有する者及び取得できる見込みの者</p> <p>3 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者（昭和56年文部省告示第153号） ※「12年の課程」に日本の学校での期間が含まれる場合 日本の中学校及び高等学校又は中等教育学校に在籍していた期間が通算して3年以内であり、かつ日本の高等学校に対応する外国の学校（日本にある外国人学校を含む。）を卒業した者</p> <p>② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>4 応用生物科学部については、次の要件を満たしている者</p> <table border="1" data-bbox="336 1290 1386 1509"> <thead> <tr> <th rowspan="2">課程等</th> <th colspan="3">日本留学試験</th> <th rowspan="2">TOEFL (CBT) (※2)</th> </tr> <tr> <th>合計点 (※1)</th> <th>「日本語」 (※1)</th> <th>「日本語」の 「記述」領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応用生命科学課程</td> <td>600点以上</td> <td>240点以上</td> <td>33点以上</td> <td>133点以上</td> </tr> <tr> <td>生産環境科学課程</td> <td>600点以上</td> <td>240点以上</td> <td>33点以上</td> <td>133点以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(備考) 1 ※1について、日本留学試験の「日本語」の「記述」領域の得点を除く。 2 ※2について、TOEFL ペーパーテスト版の成績の場合は450点以上、インターネットテスト版の成績の場合は45点以上</p>					課程等	日本留学試験			TOEFL (CBT) (※2)	合計点 (※1)	「日本語」 (※1)	「日本語」の 「記述」領域	応用生命科学課程	600点以上	240点以上	33点以上	133点以上	生産環境科学課程	600点以上	240点以上	33点以上	133点以上
	課程等	日本留学試験			TOEFL (CBT) (※2)																		
合計点 (※1)		「日本語」 (※1)	「日本語」の 「記述」領域																				
応用生命科学課程	600点以上	240点以上	33点以上	133点以上																			
生産環境科学課程	600点以上	240点以上	33点以上	133点以上																			
入試方法等	次ページのとおり																						
実施学部等	教育学部	地域科学部	医学部医学科	工学部	応用生物科学部																		
出願期間	平成29年 12月25日(月) ～ 12月27日(水)	平成30年 1月24日(水) ～ 1月26日(金)	平成30年 1月22日(月) ～ 1月24日(水)	平成30年 1月4日(木) ～ 1月5日(金)	平成30年 1月4日(木) ～ 1月5日(金)																		
入試期日	平成30年 1月26日(金)	平成30年 2月16日(金)	平成30年 2月25日(日)	平成30年 1月20日(土)	個別学力検査は課さない (渡日前入学許可)																		
合格者発表日	平成30年3月6日(火)			平成30年2月6日(火)																			

Ⅶ 学生募集要項・大学（学部）案内の請求方法等

1. 学生募集要項の配布時期

名 称	配布時期(予定)	略 称	備 考
一般入試学生募集要項	11月下旬	一般募集要項	全学部, 前後期共通
推薦入学Ⅱ特別入試(センター試験を課す)学生募集要項		推薦Ⅱ募集要項	全学部共通
推薦入学Ⅰ特別入試(センター試験を課さない)学生募集要項	7月下旬	推薦Ⅰ募集要項	合冊(地域科学部, 医学部看護学科, 応用生物科学部)
社会人特別入試学生募集要項		社会人募集要項	
帰国生特別入試学生募集要項		帰国生募集要項	
私費外国人留学生特別入試学生募集要項	11月下旬	私費外国人募集要項	全学部共通

2. 郵便による募集要項の請求方法

略 称	返信用封筒と郵送料	請 求 方 法
一般募集要項	角形2号 (縦33.2cm× 横24.0cm)	返信用封筒に郵送料分の切手を貼り, 住所・氏名及び連絡先の電話番号(本学から問い合わせが必要な場合のみ使用します。)を記入し, これを折りたたんで定形内の封筒に入れ, 請求先へ請求してください。 その際に, あて先の左側に「××募集要項請求」と朱書きしてください。 なお, 「一般募集要項」と「推薦Ⅱ募集要項」は次ページの発送代行サイトによる請求が便利です。
推薦Ⅱ募集要項		
推薦Ⅰ募集要項		
社会人募集要項		
帰国生募集要項		
私費外国人募集要項	215円 (ゆうメール)	

3. 郵便による大学（学部）案内の請求方法

名 称	請 求 先	返信用封筒と郵送料	請 求 方 法
岐阜大学案内	学務部入試課	角形2号 (縦33.2cm ×横24.0cm)	次ページの発送代行サイトによる請求方法をご利用いただくか, 郵便による募集要項の請求方法と同じ要領で返信用封筒を作成して請求してください。
教育学部案内	教育学部学務係		
地域科学部案内	地域科学部学務係		
医学部・医学科案内	医学部医学科学務係		
医学部・看護学科案内	医学部看護学科学務係		
工学部案内	工学部学務係		
応用生物科学部案内	応用生物科学部学務係		
		215円 (ゆうメール)	
		140円	
		215円 (ゆうメール)	
		140円	

郵送のほかに, 窓口でも交付しています。

4. 請求先

志望学部等	担 当 係	電話番号(直通)	所 在 地
入試の全般的なこと	学務部入試課	058-293-2156, 2157, 2180	〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
教育学部	教育学部学務係	058-293-2206, 2359	
地域科学部	地域科学部学務係	058-293-3009, 3025	
工学部	工学部学務係	058-293-2371, 2372	
応用生物科学部	応用生物科学部学務係	058-293-3409, 2838	
医学部	医学科	058-230-6078, 6075	〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
	看護学科	058-293-3217, 3218	

5. ホームページでの入試情報サービス

<http://www.gifu-u.ac.jp/>

詳しい資料の入手方法やその他の入試情報を掲載しています。
岐阜大学のホームページ「入試案内」又は「入試最新情報」等をご覧ください。

また, 募集要項(本文)等を電子ファイルにて閲覧することができます。

※PDFを用いたファイルの閲覧には, アcroバット・リーダーが必要です。

ホームページ上の入試情報

掲載開始時期	内 容
6月	オープンキャンパスの案内
7月	選抜要項等を取り寄せる方法
11月	各募集要項を取り寄せる方法
1月	出願受付状況
3月	追加合格の実施の有無

6. 発送代行サイトを利用した募集要項・大学（学部）案内の請求方法

a 大学のホームページからアクセスする場合

大学のホームページから「テレメール」又は「モバっちょ」へアクセスして資料請求ができます。料金は資料到着後の後払いです。

詳しくは、岐阜大学のホームページをご覧ください。（入試案内>大学（学部）入試情報>資料請求）
パソコンのほかにスマートフォン、携帯電話からもアクセスできます。

b テレメールを利用した請求方法

「岐阜大学案内」「各学部案内」「一般入試募集要項」「推薦入学Ⅱ募集要項」が請求できます。

〔受付期間〕（発送開始前の申込は、予約受付となります。）

- ・「岐阜大学案内」「各学部案内」→平成29年4月上旬から
- ・「推薦入学Ⅱ募集要項」（医学部医学科除く）→平成29年7月上旬から平成29年12月6日（水）まで
- ・「推薦入学Ⅱ募集要項」（医学部医学科のみ）→平成29年7月上旬から平成30年1月12日（金）まで
- ・「一般入試募集要項」→平成29年7月上旬から平成30年1月25日（木）正午まで

〔発送開始時期〕

- ・「岐阜大学案内」「各学部案内」→平成29年7月下旬から
- ・「一般入試募集要項」「推薦入学Ⅱ募集要項」→平成29年11月下旬から

〔請求手順〕

- ① 下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスしてください。

 テレメール	インターネットの場合 (パソコン・スマホ・ケータイ)	電話の場合	
	http://telemail.jp スマホ・ケータイで右のQRコードからアクセスした場合は、資料請求番号の入力は不要です。		※IP 電話

※IP電話：一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。

：住所氏名等の登録時は、ゆっくり・はっきりとお話してください。登録された音声の不鮮明な場合は資料をお届けできないことがあります。

- ② 次に請求を希望する岐阜大学の資料請求番号（6桁）を入力してください。

資料名	資料請求番号	発送開始（予定）時期
一般入試募集要項	583652	11月下旬
一般入試募集要項と大学案内のセット	543652	
推薦入学Ⅱ募集要項	583662	
大学案内	563652	7月下旬
教育学部案内	563672	7月下旬
地域科学部案内	563682	7月下旬
医学部医学科案内	563692	7月下旬
医学部看護学科案内	543662	6月下旬
工学部案内	569862	8月上旬
応用生物科学部案内	569872	4月下旬

③ あとはガイダンスに従ってお届け先を登録してください。テレメールのパスワードをお持ちの方は登録不要です。

※資料は発送日の翌日・翌々日に届きます。ただし、お届け先が北海道の一部・沖縄・離島などの場合は3日以上かかります。随時発送の資料が1週間以上（予約受付の資料は発送開始日から2週間以上）経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。なお、発送開始日以前の請求分は発送開始日に一斉に発送されます。

※料金のお支払いは、資料到着後の後払いです。お届けする資料に同封の料金支払い用紙をご確認の上、資料到着後2週間以内に表示料金をお支払いください。なお、支払い手数料が別途必要です。（コンビニ支払いは86円、ゆうちょ銀行・郵便局のATM扱いは80円、窓口扱いは130円、ケータイ払い及びクレジットカード払いは50円。）また、複数資料の料金をまとめて支払うこともできます。

※資料請求終了時及び受付確認メール内で告知される10桁の「受付番号」は、資料到着まで保管しておいてください。

テレメールでの資料請求における資料のお届け・個人情報に関するお問い合わせ・お申し出先

株式会社フロムページ「テレメールカスタマーセンター」

I P 電話 (050) 8601-0102

(受付時間9:30~18:00)

c モバっちょを利用した請求方法

「岐阜大学案内」「一般入試募集要項」が請求できます。

下記のいずれかの方法でアクセスし、請求してください。

パソコンから請求する	携帯電話, スマートフォンから請求する
http://djc-mb.jp/gifu-u/	右のQRコードからアクセスする。
	



「モバっちょ」に関する請求方法・発送についての問い合わせ先
大学情報センター株式会社 「モバっちょカスタマーセンター」
TEL : 050-3540-5005 (平日 10:00~18:00)

岐阜大学 平成 30 年度入試の変更点（特記事項）

○地域科学部

【推薦入学 I 特別入試】

- ・出願要件の一部変更

特別支援学校高等部について学科を限定せず出願できるものとして追加

…………… P. 36

○工学部

【前期日程, 後期日程】

- ・センター試験及び個別学力検査の配点の変更…………… P. 19～20, 24

平成 28 年熊本地震により被災した入学志願者の検定料免除について

岐阜大学では、平成 28 年熊本地震により被災した入学志願者に対して検定料免除の特別措置を行います。詳細は岐阜大学のホームページを参照してください。

<問い合わせ先一覧>

志望学部等	担 当 係	電話番号（直通）	所 在 地
入試の全般的なこと	学務部入試課	058-293-2156, 2157, 2180	〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1
教 育 学 部	教育学部学務係	058-293-2206, 2359	
地 域 科 学 部	地域科学部学務係	058-293-3009, 3025	
工 学 部	工学部学務係	058-293-2371, 2372	
応 用 生 物 科 学 部	応用生物科学部学務係	058-293-3409, 2838	
医学部 医 学 科	医学部医学科学務係	058-230-6075, 6078	〒501-1194 岐阜市柳戸 1 番 1
医学部 看護学科	医学部看護学科学務係	058-293-3217, 3218	

月曜日～金曜日（年末年始・祝日等を除く。）9：00 から 17：00 まで

岐阜大学ホームページ <http://www.gifu-u.ac.jp/>